

平成30年～令和3年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)  
 自己点検報告書

|               |                   |        |      |
|---------------|-------------------|--------|------|
| 団 体 名         | 公益財団法人可児市文化芸術振興財団 |        |      |
| 施 設 名         | 可児市文化創造センター       |        |      |
| 助 成 対 象 活 動 名 | まち元気プロジェクト        |        |      |
| 助 成 期 間       | 5                 |        | (年間) |
| 内 定 額         | 平成30年度            | 35,134 | (千円) |
|               | 平成31年度            | 27,113 |      |
|               | 令和2年度             | 20,276 |      |
|               | 令和3年度             | 43,992 |      |

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

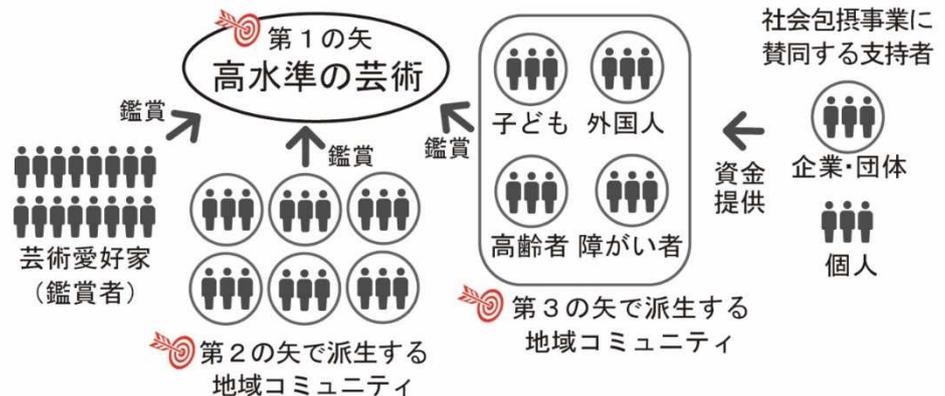
### 事業名：まち元気プロジェクト

#### 【従来型の劇場経営】



一部の芸術愛好家向けの  
選択的サービスにより  
鑑賞者数が限られている

#### 【私たちが目指す劇場経営】



文化芸術がコミュニティの細部  
まで浸透することで、社会を健  
全化し、劇場の鑑賞者や支持者  
開発に繋がります。

事業収益の増加  
資金調達環境の向上  
社会的コスト・受益者負担の軽減

### 第1の矢：感動と希望を生み出す最高水準の舞台芸術

#### 地域から全国へ質の高い 舞台芸術の創造発信

- プロの創作現場を市民が支える地域ならではの創造環境の確立
- 質の高い舞台芸術の東京一極集中からの脱却
- 市民が誇れる創造活動の拠点形成
- 地元アーティストとの連携による地域に根付いた創造活動

#### 英国を代表する劇場との 劇場提携

- 共同制作による世界水準の舞台芸術の創造発信
- 人材交流による制作能力の向上と英国人講師によるワークショップ等による社会貢献活動の強化

#### 日本トップクラスの 芸術団体との地域拠点契約

- 質の高い芸術の鑑賞機会の提供
- 地域密着型マーケティングによる鑑賞者開発と定着化の実現
- 芸術団体と市民との関係性の構築

#### 市民に寄り添う マーケティング

- 当日ハーフプライスなど多彩な割引システムによる鑑賞環境の向上
- パスデーサプライズやアフタートークなどによる特別な一日を演出する思いづくり
- 劇場ボランティアの育成による鑑賞者サービスの強化
- フレンドシップ会員による顧客の管理とサービス強化

#### 鑑賞モニターによる 評価システム

- 公募して集めた市民による鑑賞モニターとの意見交換
- 鑑賞者アンケートによる鑑賞サービスの向上
- 理事・評議委員による事業評価

#### 企業と連携した青少年&貧困家庭 鑑賞機会提供

- 地元企業の社会貢献活動の促進
- 青少年の鑑賞機会の提供
- 貧困家庭の鑑賞機会の提供



## 第2の矢：人と人をつなげていく市民総活躍社会の実現

### 市民活動の発表の場の提供

- 舞台芸術専用のステージと専門的技術スタッフによる市民の発表の場の提供
- 市民の芸術活動の広報宣伝協力
- 施設利用者アンケートによるサービス強化

### コミュニティ作りのワークショップ

- 音楽、演劇、伝統芸能などのアーティストによる定期的な講座やワークショップによる芸術活動の活性化と地域コミュニティの創出
- 参加者アンケートによるサービス向上
- アーティストと市民の関係性作りの強化

### 実演芸術家とコミュニティアーツ・ワーカーの育成

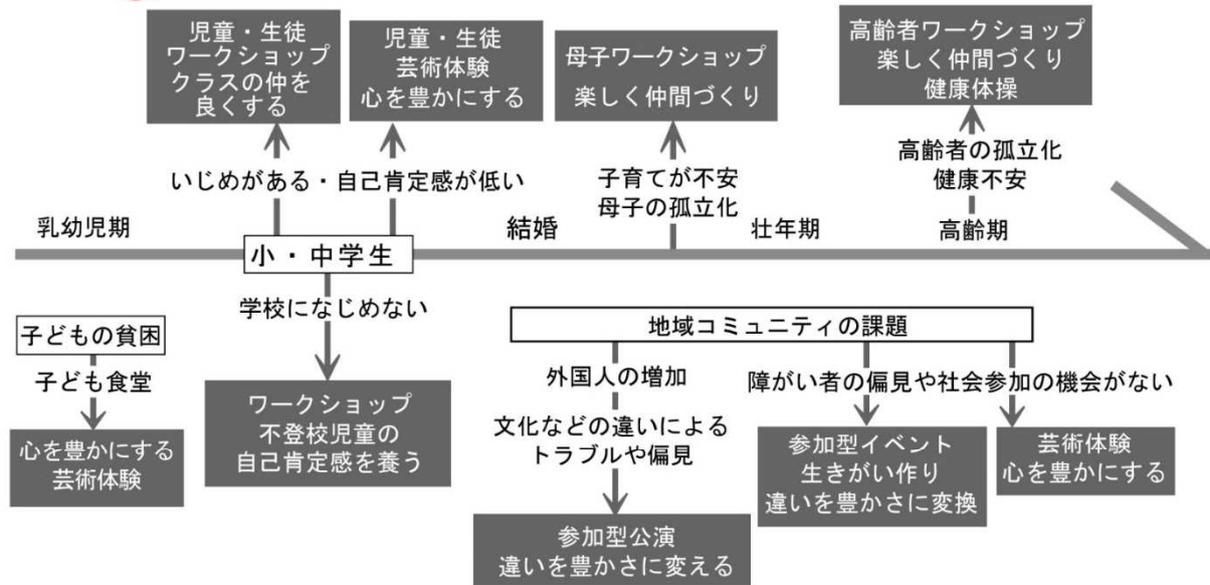
- 若手実演芸術家の育成による実演芸術の向上
- コミュニティアーツ・ワーカー育成によるコミュニティ事業(ワークショップなど)の拡大と質向上。
- ※コミュニティアーツ・ワーカーとは、地域コミュニティの関係改善のために活動するアーティスト

### 市民参加型の大型公演

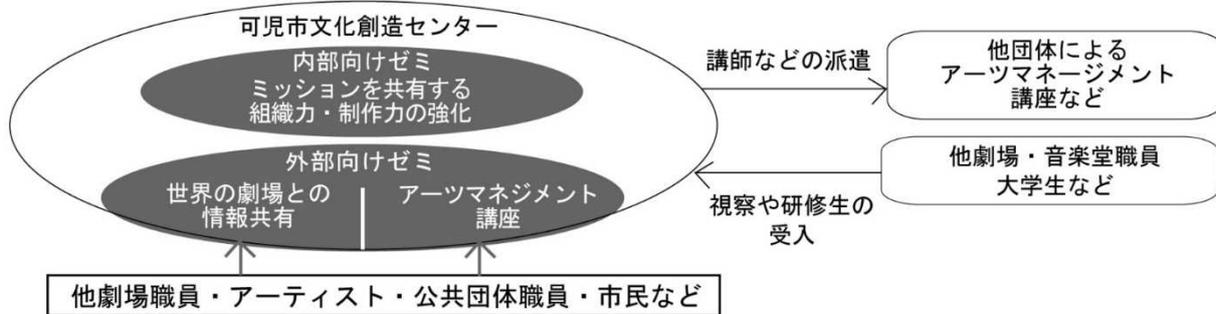
- 創作活動を通して、参加者同士の絆を深め、最高の思い出づくりを演出
- 一流の演出家との共同作業で、質の高い作品を創作し、芸術活動の発展と活性化を促進
- 鑑賞者の発掘



## 第3の矢：生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティネット



## 組織力と制作能力の強化と同時に、全国に優れた人材を育成



## (2) 令和3年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名   | 主な実施日程                              | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |        |
|----|---|-------------------------------------|--|----------|--------|
|    |   | 主な実施会場                              |  | 目標値      | 実績値    |
| 1  | ala Collection シリーズ<br>vol.12『紙屋悦子の青春』<br>可児・東京公演 | 10/1 (金)～4 (月)<br>10/20 (水)～/28 (木) | 作/松田正隆、演出/藤井ごう、出<br>演/平体まひろ、枝元萌、藤原章寛、<br>長谷川敦央、岸槌隆至                                    | 目標値      | 1,620  |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー/吉祥寺シアター             |  | 実績値      | 1,176※ |
| 2  | 君といた夏～スタンドパ<br>イミー可児～                             | 3月5日(土)                             | 作・作詞・ナレーション/瀬戸口郁、<br>演出/黒田百合、音楽/上田亨<br>撮影・編集/矢島幹也<br>出演/市民51名                          | 目標値      | 1,200  |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・主劇場                 |  | 実績値      | 160※   |
| 3  | 新日本フィルハーモニー<br>交響楽団 サマーコンサ<br>ート2021              | 8月21日(土)                            | 指揮/井上道義 ヴァイオリン/辻<br>彩奈 管弦楽/新日本フィルハーモ<br>ニー交響楽団   | 目標値      | 750    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・小劇場                 |  | 実績値      | 561※   |
| 4  | 文学座「牡丹燈籠」   | 12月10日(金)～<br>11日(土)                | 作/三遊亭円朝、脚本/大西信行<br>演出/鶴山 仁、出演/早坂直家、石<br>川武、大原康裕、沢田冬樹、相川春<br>樹、越塚学、富沢亜古、他               | 目標値      | 330    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・小劇場                 |  | 実績値      | 269    |
| 5  | シリーズ恋文 vol.11                                     | 1月15日(土)～<br>16日(日)                 | 構成・演出/瀬戸山美咲<br>出演/田中要次、高橋由美子<br>音楽(ピアノ)/黒木由香   | 目標値      | 200    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・小劇場                 |  | 実績値      | 250※   |
| 6  | 多文化共生プロジェクト<br>2021                               | 8月1日(日)                             | 脚本・演出/鹿目由紀<br>出演/8名 声のみの出演27名<br>アドバイザー/住吉エリオ、村上ヴ<br>ァネッサ、山田久子                         | 目標値      | 100    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・演劇ロフト               |  | 実績値      | 92     |
| 7  | 森山威男ジャズナイト<br>2021                                | 2月5日(土)                             | 出演/森山威男、渡辺ファイアー<br>(as)、川嶋哲郎(ts)、田中信正(p)、<br>田中邦和(bs)、佐藤芳明(acc)、類<br>家心平(tp)、水谷浩章(b)、他 | 目標値      | 800    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・主劇場                 |  | 実績値      | 276※   |
| 8  | ウィーン・フォルクスオー<br>パー交響楽団 ニューイ<br>ヤーコンサート2022        |                                     | 新型コロナウイルス感染症の影響に<br>より事業を中止した。   | 目標値      | 800    |
|    |   |                                     |  | 実績値      | -※     |
| 9  | 新日本フィルハーモニー<br>交響楽団メンバーによる<br>オープン・シアター・コン<br>サート |                                     | 新型コロナウイルス感染症の影響に<br>より事業を中止した。   | 目標値      | 720    |
|    |   |                                     |  | 実績値      | -※     |
| 10 | 文学座とつくるファミリ<br>ー舞台                                |                                     | 緊急事態宣言発令に伴う閉館により、事<br>業を中止。(2021年8月7日に初回のオー<br>ディションのみ行った。)                            | 目標値      | 70     |
|    |   |                                     |  | 実績値      | -※     |
| 11 | アーラ紙芝居一座 市内<br>巡回公演                               | 11月27日(土)                           | 演目/『おおきなかぶ』『ももたろう』<br>演出/森さゆり(文学座所属・演出<br>家)、出演/アーラ紙芝居一座                               | 目標値      | 50     |
|    |   | 兼山児童館                               |  | 実績値      | 32※    |
| 12 | 平田オリザの「対話を考える」<br>ワークショップ                         | 7月29日(木)                            | 講師/平田オリザ<br>参加者/市内に勤務する小・中学校<br>教員28名  | 目標値      | 20     |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・レセプションホール           |  | 実績値      | 28     |
| 13 | 森山威男ドラム道場   | 4月～3月の毎週月曜                          | 講師/森山威男  | 目標値      | 276    |
|    |   | 可児市文化創造センタ<br>ー・音楽ロフト他              |  | 実績値      | 149※   |

|    |                                     |                          |  |     |       |
|----|-------------------------------------|--------------------------|--|-----|-------|
| 14 | アーラ未来の演奏家プロジェクト                     |                          | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止。   | 目標値 | 800   |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |
| 15 | フロントスタッフ研修                          | 7/4(日)、7/22(木・祝)、8/21(土) | 講師/星乃もと子   | 目標値 |       |
|    |                                     | 可児市文化創造センター研修室、主劇場他      |  | 実績値 | 38    |
| 16 | 劇場に関わる人のためのアートマーケティングゼミ「あーとま塾 2021」 | 2月24日(木)・25日(金)          | 塾長/衛紀生、事例報告/村尾剛志・直井恵・栗田康弘、モデレーター/落合千華  | 目標値 | 90    |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・美術ロフト        |  | 実績値 | 46 ※  |
| 17 | シアターキャンプ (ALRA との演劇交流プログラム)         |                          | 新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。  | 目標値 | 20    |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |
| 18 | 歌舞伎とおしゃべりの会                         | 10月～3月                   | 講師/葛西聖司、松本幸四郎、高橋久則、中村橋吾、木ノ下裕一、中村歌昇   | 目標値 | 410   |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・映像シアター他      |  | 実績値 | 407 ※ |
| 19 | 新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート            | 11月8日(月)～12日(金) 全10回     | 出演/弦楽四重奏: Vn.松崎千鶴、Vn.田村安紗美、Va.高橋正人、Vc.多田麗王<br>ピアノ/リオ: Vn.古日山倫世、Vc.サミュエル・エリクソン、Pf.高橋ドレミ | 目標値 | 500   |
|    |                                     | 小学校:4校、中学校:1校、福祉施設:1か所   |  | 実績値 | 581 ※ |
| 20 | 文学座おでかけ朗読会                          | 10月19日(火)～22日(金)         | 朗読作品/太宰治『走れメロス』<br>出演/佐川正和(文学座所属)<br>対象/中学生生徒および教師                                     | 目標値 | 880   |
|    |                                     | 蘇南中、中部中東可児中、広陵中          |  | 実績値 | 780 ※ |
| 21 | 文学座キッズワークショップ                       |                          | 新型コロナウイルスの感染拡大により中止。   | 目標値 | 15    |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |
| 22 | 町が元気になる処方箋                          | 7月29日(木)                 | 出演/平田オリザ、衛紀生、笹橋義朗  | 目標値 | 50    |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・映像シアター       |  | 実績値 | 57    |
| 23 | みんなのディスコ                            | 10月31日(日)                | MC/川名洋行、DJ/AKIRA、KZY、KYORO、参加/ボランティアスタッフ、可茂学園、愛の家グループホーム可児広見                           | 目標値 | 100   |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・演劇ロフト        |  | 実績値 | 37 ※  |
| 24 | ココロとカラダワークショップ                      | 前期4月～7月の水曜、後期10月～12月の水曜  | 講師/新井英夫(ダンスアーティスト)、Ten seeds(劇・遊び・表現活動)、アシスタント/板坂記代子、松岡恭子                              | 目標値 | 150   |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・レセプションホール他   |  | 実績値 | 485 ※ |
| 25 | 世界劇場会議 国際フォーラム 2022 in 可児           |                          | 新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。  | 目標値 | 150   |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |
| 26 | 英国人講師による演劇ワークショップ                   |                          | 新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。  | 目標値 | 240   |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |
| 27 | 子どもの居場所支援事業 子ども食堂おでかけ演劇ワークショップ      |                          | 新型コロナウイルス感染拡大により事業中止。  | 目標値 | 40    |
|    |                                     |                          |  | 実績値 | - ※   |

|    |                                       |                         |   |     |      |
|----|---------------------------------------|-------------------------|---|-----|------|
| 28 | アーラみんなのピアノプロジェクト                      | 月・木・金曜日のうち指定日 30分間/1人1回 | 講師/有志で集まった地元ピアノ講師および音大生 9名、参加者/ピアノ教室に通っていない幼稚園年長から中学3年生 27名                     | 目標値 |      |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・演劇練習室他      |   | 実績値 | 27※  |
| 29 | 就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ(ヘックマン・プロジェクト) | 8/20、11/5、12/3、1/13     | 講師/石丸有里子、絹川友梨 アシスタント/知念ユニコ、さとうりつこ、清水洋幸<br>対象/ハnds・オブ・ガッド保育園の年長クラス(5歳)の子どもたち 26人 | 目標値 | 60   |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・美術ロフト他      |   | 実績値 | 104※ |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名   | 主な実施日程<br>主な実施会場                                       |  | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数     |              |
|----|---|--|--|--|--------------|--------------|
|    |   |  |  |  | 目標値          | 実績値          |
| 1  | 君といた夏～スタンドバイミー可児～                           |  |  | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。   | 目標値<br>1,900 | 実績値<br>— ※   |
| 2  | 文学座『昭和虞美人草』※                                | 3月27日～29日※<br>可児市文化創造センター<br>小劇場                       |  | 作／マキノノゾミ 演出／西川信廣<br>出演／早坂直家・植田真介・斉藤祐一・<br>細貝光司・上川路啓志・富沢亜古・伊藤<br>安那・鹿野真央・高柳絢子・平体まひろ | 目標値<br>540   | 実績値<br>294 ※ |
| 3  | 多文化共生プロジェクト<br>2020                         | 11月29日※<br>可児市文化創造センター<br>美術ロフト※                       |  | 脚本・演出／鹿目由紀、出演／外国にル<br>ーツを持つ方、地域に暮らす方（日本人<br>含む）53名、アドバイザー／住吉エリオ・<br>村上バニー・山田久子 ※   | 目標値<br>80    | 実績値<br>53    |
| 4  | 森山威男×田中信正<br>DUO LIVE                       | 12月12日※<br>可児市文化創造センター<br>演劇ロフト※                       |  | 出演／森山威男 田中信正<br>特別出演／伊藤在人（ドラム道場生）<br>※   | 目標値<br>300   | 実績値<br>100 ※ |
| 5  | 新日本フィルハーモニー<br>交響楽団 リニューアル<br>記念演奏会         | 2月7日<br>可児市文化創造センター<br>主劇場                             |  | 管弦楽／新日本フィルハーモニー交響楽<br>団、指揮／阪哲朗、ソリスト／重松希巳<br>江 (Cl.)・河村幹子 (Fg.)<br>※                | 目標値<br>800   | 実績値<br>328 ※ |
| 6  | 文学座俳優による子ども<br>向け舞台（仮称）                     |  |  | 新型コロナウイルス感染症の影響により<br>事業を中止した。   | 目標値<br>210   | 実績値<br>— ※   |
| 7  | 平田オリザの「対話を考える」<br>ワークショップ                   |  |  | 新型コロナウイルス感染症の影響により<br>事業を中止した。   | 目標値<br>20    | 実績値<br>— ※   |
| 8  | 森山威男ドラム道場                                   | 10月～3月の毎週月曜<br>可児市文化創造センター<br>音楽ロフトほか                  |  | 講師／森山威男  | 目標値<br>192   | 実績値<br>184 ※ |
| 9  | アーラ未来の演奏家プロ<br>ジェクト                         |  |  | 新型コロナウイルス感染症の影響により<br>事業を中止した。   | 目標値<br>800   | 実績値<br>— ※   |
| 10 | 劇場フロントスタッフ研<br>修                            | 1月16日・30日※<br>可児市文化創造センター<br>研修室、主劇場                   |  | 講師／星野もと子   | 目標値<br>50    | 実績値<br>29 ※  |
| 11 | 劇場に関わる人のための<br>アーツマーケティング・ゼ<br>ミ「あーとま塾2020」 | 2月26日・27日※<br>可児市文化創造センター<br>レセプションホール※                |  | 塾長／衛紀生<br>ゲスト講師／八木匡・落合千華<br>ロジックモデルファシリテーター／今尾江美子<br>※                             | 目標値<br>60    | 実績値<br>13 ※  |
| 12 | 歌舞伎とおしゃべりの会                                 | 10/18・11/28・12/20・<br>2/14※<br>可児市文化創造センター<br>美術ロフトほか※ |  | 講師／葛西聖司・木ノ下裕一<br>ゲスト／市川猿弥・片岡千之助<br>※   | 目標値<br>410   | 実績値<br>240 ※ |
| 13 | 新日本フィルハーモニー<br>交響楽団おでかけコンサ<br>ート            |  |  | 新型コロナウイルス感染症の影響により<br>事業を中止した。   | 目標値<br>400   | 実績値<br>— ※   |

| 番号 | 事業名                      | 主な実施日程      | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)                                    | 入場者・参加者数 |               |
|----|--------------------------|-------------|---|----------|---------------|
|    |                          | 主な実施会場      |   | 目標値      | 実績値           |
| 14 | 文学座おでかけ朗読会               |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 1,000         |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 15 | 文学座おでかけリーディング+演劇ワークショップ  |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 1,000         |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 16 | 町が元気になる処方箋               |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 50            |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 17 | みんなのディスコ                 |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 200           |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 18 | ココロとカラダワークショップ           | 5月～12月の月1回※ | 講師/新井英夫(ダンスアーティスト)・Ten seeds(劇・あそび・表現活動)アシスタント/板坂記代子・松岡恭子 | 目標値      | 1,200         |
|    |                          | オンライン開催※    |   | 実績値      | 88 ※          |
| 19 | 世界劇場会議国際フォーラム 2021 in 可児 |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 130           |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 20 | 英国講師による学校ワークショップ         |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 300           |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |
| 21 | 親子で楽しむワークショップ(ひとり親家庭対象)  |             | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。                                | 目標値      | 40<br>(20×2回) |
|    |                          |             |   | 実績値      | — ※           |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

#### (4) 平成31年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名                                      | 主な実施日程                   | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)  | 入場者・参加者数 |       |
|----|--|--------------------------|---|----------|-------|
|    |  | 主な実施会場                   |   | 目標値      | 実績値   |
| 1  | 日英国際交流事業<br>『To See You, At Last プロジェクト』 | 8月12日(月)                 | 演目：『To See You, At Last』(日英合作)<br>参加・出演：日本人6名、英国人8名<br>演出：アレックス・フェリス、藤井ごう                 | 目標値      | 108   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇ロフト     |   | 実績値      | 65    |
| 2  | 新日本フィルハーモニー交響楽団 サマー・コンサート2019            | 8月24日(土)                 | 指揮：井上道義／ヴァイオリン：辻彩奈<br>演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団<br>プログラム：ベートーヴェン交響曲第6番へ長調「田園」op.68、他             | 目標値      | 750   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>主劇場       |   | 実績値      | 842   |
| 3  | 文学座公演<br>『ガラスの動物園』                       | 7月24日(水)、25日(木)          | 作：T.ウィリアムズ 翻訳：小田島恒志<br>演出：高橋正徳(文学座所属)<br>出演：塩田朋子、亀田佳明、永宝千晶、池田倫太郎、ほか                       | 目標値      | 360   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>小劇場       |   | 実績値      | 456   |
| 4  | シリーズ恋文 vol.10                            | 11月2日(土)、3日(日)           | 演目：『恋文コンテスト』にて全国から集められた恋文<br>出演：辰巳琢郎、木の実ナナ<br>音楽・ピアノ演奏：黒木由香<br>構成・演出：鈴木聡(劇団らっぱ屋主宰)        | 目標値      | 460   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>小劇場       |   | 実績値      | 355   |
| 5  | 多文化共生プロジェクト2019『にぎやかなお葬式』                | 9月22日(日)                 | 演目：『にぎやかなお葬式』<br>作・演出：鹿目由紀<br>出演：24人(ブラジル6人、フィリピン3人、ペルー1人、日本14人)<br>サポーター：4人(ブラジル1人、日本3人) | 目標値      | 110   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇ロフト     |   | 実績値      | 154   |
| 6  | 森山威男ジャズナイト2019                           | 9月21日(土)                 | 出演者：森山威男(ds) 渡辺ファイアー(as) 川嶋哲郎(ts) 佐藤芳明(acc) 田中信正(p) 水谷浩章(b) 相川瞳(per)<br>曲目：「Sunrise」他     | 目標値      | 700   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>主劇場       |   | 実績値      | 638   |
| 7  | 新日本フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤー・コンサート2020         | 1月5日(日)                  | 指揮：広上淳一<br>演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団<br>司会：田添菜穂子(フリーアナウンサー)<br>プログラム：「ロンピ」／「女王ルイーズのワルツ」他         | 目標値      | 830   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>主劇場       |   | 実績値      | 812   |
| 8  | 新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート    | 6月13日(木)                 | 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団<br>プログラム：モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」他                                    | 目標値      | 720   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>主劇場       |   | 実績値      | 609   |
| 9  | 文学座俳優による子ども向け舞台『さるかに合戦』                  | 8月31日(土)、9月1日(日)         | 出演：文学座(高柳絢子、相川春樹、大野香織)、市民キャスト16名<br>台本：さいとうゆういち   | 目標値      | 130   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇練習室     |   | 実績値      | 182   |
| 10 | アール紙芝居一座公演                               | 5月19日(日)                 | 演目：『いっすんぼし』『おむすびころりん』<br>演出：高橋正徳(文学座所属・演出家)<br>出演：公募による市民13名<br>サポーター：5名                  | 目標値      | 70    |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇練習室     |   | 実績値      | 186   |
| 11 | 平田オリザの「対話を考える」ワークショップ                    | 11月16日(土)                | 講師：平田オリザ<br>参加者：市内の高齢者支援の現場に従事する関係者12名  | 目標値      | 20    |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>レセプションホール |   | 実績値      | 12    |
| 12 | 森山威男ドラム道場                                | 毎週月曜                     | 講師：森山威男   | 目標値      | 288   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>音楽ロフトほか   |   | 実績値      | 286   |
| 13 | アール未来の演奏家プロジェクト                          | 6月26日(水)~30日(日)          | 演奏：森浩司(Pf.)、長谷川彰子(Vc.)<br>コーディネーター：佐野秀典<br>プログラム：プーランク／チェロ・ソナタ FP143 他                    | 目標値      | 900   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>小学校2校     |   | 実績値      | 1,567 |

| 番号 | 事業名  | 主な実施日程   | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |       |
|----|--|--|--|----------|-------|
|    |  | 主な実施会場   |  | 目標値      | 実績値   |
| 14 | 劇場フロントスタッフ研修                                 | 7/28(日)、8/25(日)、<br>10/14(月・祝)                                       | 講師：星乃もと子   | 目標値      | 100   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>研修室、主劇場他  |  | 実績値      | 57    |
| 15 | 劇場に関わる人のためのア<br>ーツマーケティング・ゼミ<br>「あーとま塾 2019」 | Step① 5/30(木)・31(金)<br>Step② 10/16(水)・<br>17(木)<br>Step③ 2/1(土)・2(日) | テーマ：「文化政策」、「社会包摂」、<br>「マーケティング」<br>講師：八木 匡、笹路 健、早川悟司、野<br>田大順、多田周平、幸地正樹、他  | 目標値      | 40    |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>美術ロフト他  |  | 実績値      | 108   |
| 16 | シアターキャンプ<br>～ALRA(英国)との演劇交流<br>プログラム         | 10月8日(火)～14日(月)  | 内容：英国式身体訓練法、ファシリテー<br>ション法、市内小学校へのアウトリーチ<br>講師：クリス・ヒル、英国 ALRA 演出修<br>士コース学生3名、随通訳1名<br>参加：日本人俳優・演出経験者7名<br>市内からのオブザーブ参加者2名 | 目標値      | 17    |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇ロフト、市内小学校   |  | 実績値      | 14    |
| 17 | 歌舞伎とおしゃべりの会                                  | 2019年5月～2020年2月  | 講師：中村橋吾、木ノ下裕一、中村錦之<br>助、葛西聖司、七代目 笑福亭松喬、山崎<br>徹、豊竹靖太夫、鶴澤清志郎   | 目標値      | 360   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>映像シアター他   |  | 実績値      | 505   |
| 18 | 新日本フィルハーモニー交<br>響楽団おでかけコンサート                 | 6月12日(水)、14日(金)、<br>19日(水)～21日(金)                                    | 出演：新日本フィルハーモニー交響楽団   | 目標値      | 400   |
|    |  | 市内高齢者施設、病院、小<br>学校 計10コマ   |  | 実績値      | 503   |
| 19 | 文学座おでかけ朗読会                                   | 7月2日(火)～5日(金)  | 出演：山崎美貴(文学座)   | 目標値      | 1,000 |
|    |  | 西可児中、広陵中、蘇南<br>中、中部中   |  | 実績値      | 794   |
| 20 | 町が元気になる処方箋                                   | 11月16日(土)  | テーマ：「幸福とは？経済学の視点から考<br>える」<br>出演：平田オリザ、衛紀生、八木匡   | 目標値      | 50    |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>映像シアター  |  | 実績値      | 40    |
| 21 | みんなのディスコ                                     | 9月28日(土)   | DJ：松井 陽介、MC：川名 洋行<br>ACT：多治見西高等学校ダンス部、川名<br>洋行、Team 可茂学園、ONES、JOY☆UP、<br>みなぶた from 福井                                      | 目標値      | 100   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>演劇ロフトほか   |  | 実績値      | 123   |
| 22 | ココロとカラダワークショ<br>ップ                           | 前期4月～7月の水曜、<br>後期10月～12月の水曜  | 講師：新井英夫、Ten seeds<br>アシスタント：板坂記代子、松岡恭子、<br>亀井千恵  | 目標値      | 1,120 |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>レセプションホール   |  | 実績値      | 855   |
| 23 | 世界劇場会議国際フォーラ<br>ム 2020 in 可児                 | 1月30日(木)、31日(金)  | テーマ：“文化芸術の社会包摂”<br>登壇者：セーラ・ジー、カス・ラッセル、<br>ジョナサン・ハーバー、中村美亜、栗林<br>知絵子、藤井昌彦、前田有作、衛紀生、<br>細井昭男、他                               | 目標値      | 150   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>小劇場   |  | 実績値      | 141   |
| 24 | 英国人講師による学校ワー<br>クショップ                        | 1月13日(月) -17日(金)   | 講師：Gemma Woffinden(リーズ・プレ<br>イハウスより派遣)<br>アシスタント：山田久子、原口知夏、清<br>水万里子、かっこ英語サポーター<br>通訳：石井麗子(文学座)                            | 目標値      | 300   |
|    |  | 可児市文化創造センター<br>美術ロフト、市内小中学校  |  | 実績値      | 290   |
| 25 | 親子で楽しむワークショップ<br>(ひとり親家庭対象)                  | 1月26日(日)   | 講師：植田真介(文学座)<br>アシスタント：浅海彩子、佐藤麻衣子(文<br>学座)   | 目標値      | 20    |
|    |  | 可児市子育て健康プラザ<br>健康スタジオ  |  | 実績値      | 19    |

## (5) 平成30年度実施事業一覧

| 番号 | 事業名                                   | 主な実施日程            | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |                             |
|----|---------------------------------------|-------------------|--|----------|-----------------------------|
|    |                                       | 主な実施会場            |  | 目標値      | 実績値                         |
| 1  | オーケストラで踊ろう!                           | 2019年3月2日、3日      | 演目:オーケストラで踊ろう! 出演:公募による市民ダンサー49名 演奏:可児交響楽団(市民オーケストラ) 振付、演出:近藤良平(ダンサー、コンドルズ主宰)  | 目標値      | 1,073                       |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・主劇場   |  | 実績値      | 市民ダンサー49、市民オーケストラ65、入場者数833 |
| 2  | 新日本フィルハーモニー交響楽団 サマー・コンサート2018         | 2018年7月29日        | プログラム:ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番ハ短調 Op.18 指揮:上岡敏之(新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督) ピアノ:オルガ・シェプス 管弦楽:新日本フィルハーモニー交響楽団                            | 目標値      | 750                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・主劇場   |  | 実績値      | 771                         |
| 3  | 文学座公演 「かのような私一 或いは斎藤平の一生」             | 2018年9月27日、28日    | 作:古川健(劇作家・俳優、劇団チョコレートケーキ所属) 演出:高橋正徳(演出家、劇団文学座所属) 出演:関輝雄、川辺邦弘、亀田佳明ほか  | 目標値      | 480                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・小劇場   |  | 実績値      | 446                         |
| 4  | シリーズ恋文 vol.9                          | 2018年11月24日、25日   | 演目:トランプが全部揃ったら、傍らの妻へ、ほか出演者:石丸謙二郎、市毛良枝 音楽・ピアノ演奏:黒木由香 演出:詩森ろば(seriarunumber 主宰)  | 目標値      | 500                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・小劇場   |  | 実績値      | 394                         |
| 5  | 多文化共生プロジェクト2018                       | 2019年2月11日        | 演出:鹿目由紀(劇団あおきりみかん) 出演:14人(ブラジル7人、ペルー1人、日本5人) サポーター:4人(ブラジル1人、日本3人)   | 目標値      | 80                          |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・演劇練習室 |  | 実績値      | 90                          |
| 6  | 森山威男ジャズナイト2018                        | 2018年9月15日        | 曲目:Birth of Life、East Plants ほか 出演:森山威男(ds)、渡辺ファイアー(as)、川嶋哲郎(ts)、佐藤芳明(acc)、田中信正(p)、水谷浩章(b)、相川瞳(per)、類家心平(tp)             | 目標値      | 750                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・主劇場   |  | 実績値      | 680                         |
| 7  | ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 ニューイヤー・コンサート2019   | 2019年1月7日         | 演目:オペレッタ「美しきガラテア」ほかソリスト:アナ・マリア・ラビン(ソプラノ)、トーマス・ブロンデル(テノール)、舞踏:アンサンブル SVO ウィーン・メンバー 指揮:アレクサンダー・ジョエル、管弦楽:ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 | 目標値      | 800                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・主劇場   |  | 実績値      | 794                         |
| 8  | 新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート | 2018年6月14日        | プログラム:モーツァルト/アイネ・クライン・ナハトムジークほかスタッフ:西江辰郎、田村直貴(ヴァイオリン)、原孝明(ヴィオラ)、飯島哲蔵(チェロ)ほか  | 目標値      | 800                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・主劇場   |  | 実績値      | 710                         |
| 9  | 文学座俳優による子ども向け舞台「三匹のこぶた」               | 2018年8月25日、26日    | 演出・音楽・出演:鈴木亜希子、吉野実紗、相川春樹(俳優、文学座) 美術・演出協力:乗峯雅寛(舞台美術家、文学座)   | 目標値      | 120                         |
|    |                                       | 可児市文化創造センター・演劇練習室 |  | 実績値      | 入場者数185 参加者数22              |

| 番号 | 事業名                                 | 主な実施日程                                   | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |                  |
|----|-------------------------------------|--|--|----------|------------------|
|    |                                     | 主な実施会場                                   |  | 目標値      | 実績値              |
| 10 | 平田オリザの「対話を考える」ワークショップ               | 2018年8月3日                                | カリキュラム：「(生徒の)参加を促す」～声を出す・動く・集まる講師：平田オリザ(劇作家、演出家、青年団主宰)   | 目標値      | 30               |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・レセプションホール                    |  | 実績値      | 13               |
| 11 | 森山威男ドラム道場                           | 毎週月曜日                                    | 講師：森山威男(ジャズドラマー)   | 目標値      | 300              |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・音楽ロフトほか                      |  | 実績値      | 265              |
| 12 | アラ未来の演奏家プロジェクト                      | 2018年6月21日、22日、24日                       | プログラム：J.S.バッハ/無伴奏フルトのためのバルティータイ短調 BWV1013 ほか出演者：渡久地圭(フルト)、大橋春奈(ピアノ)、佐野秀典(作曲・編曲家)                                       | 目標値      | 900              |
|    |                                     | 可児市文化創造センター、市内小学校2校                      |  | 実績値      | 入場者118<br>参加者913 |
| 13 | 劇場フロントスタッフ研修                        | 2018年7月16日、8月4日、10月28日                   | 内容：座学、実地研修<br>講師：星乃もと子(Theatre Management Plan Co.,Ltd.代表)   | 目標値      | 100              |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・音楽ロフト、主劇場                    |  | 実績値      | 95               |
| 14 | 劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾2018」 | 2018年5月24日、25日、10月10日、11日、2019年1月30日、31日 | テーマ：文化政策、社会包摂、マーケティングゲスト：大江耕太郎(文化庁文化活動振興室長)、幸地正樹(ケイスリー(株)代表取締役)、湯浅誠(法政大学教授)、セーラ・ジー(インディゴ社業務執行役員)、竹田亨(日本航空(株)地域活性化推進部長) | 目標値      | 30               |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・音楽ロフトほか                      |  | 実績値      | 114              |
| 15 | 歌舞伎とおしゃべりの会                         | 2018年5月～12月                              | 講師：中村橋吾(歌舞伎役者)、吉田豊(岐阜県芸術文化会議名誉顧問)、葛西聖司(古典芸能解説者)、中村萬太郎(歌舞伎役者)、川瀬露秋(地歌箏曲胡弓演奏家)、鶴澤都賀寿(義太夫三味線)                             | 目標値      | 400              |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・映像シアター                       |  | 実績値      | 375              |
| 16 | 新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート            | 2018年6月12日、13日、15日、18日、19日               | プログラム：ポロディン/弦楽四重奏曲第2番ニ長調より第1楽章、ハチャトゥリアンほかスタッフ：西江辰郎、田村直貴(ヴァイオリン)、原孝明(ヴィオラ)、飯島哲蔵(チェロ)、柴原誠・斎藤祥子・牧野美沙(ハーカッション)             | 目標値      | 400              |
|    |                                     | 市内小中学校4校                                 |  | 実績値      | 357              |
| 17 | 文学座おでかけ朗読会「父母への手紙」                  | 2018年7月3日～6日                             | プログラム：「ただいま、おかえり」「愛すべき二人の母上様」「細い小さな大黒柱」「娘を返してくれ」出演：山崎美貴(俳優、文学座)  | 目標値      | 1,000            |
|    |                                     | 市内小中学校3校                                 |  | 実績値      | 483              |
| 18 | 町が元気になる処方箋                          | 2018年8月3日                                | テーマ：「生きづらさ、生きにくさ」を考える新しい広場としての劇場の可能性ゲスト：平田オリザ(劇作家・演出家)、森川すいめい(精神科医)  | 目標値      | 50               |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・映像シアター                       |  | 実績値      | 56               |
| 19 | みんなのディスコ                            | 2018年6月23日                               | スタッフ：N.O.D.A.summer(DJ)、蛭名佳(DJ)、ryosei(DJ)   | 目標値      | 150              |
|    |                                     | 可児市文化創造センター・演劇ロフト                        |  | 実績値      | 95               |

| 番号 | 事業名                      | 主な実施日程                | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |       |
|----|--------------------------|-----------------------|--|----------|-------|
|    |                          | 主な実施会場                |  | 目標値      | 実績値   |
| 20 | ココロとカラダワークショップ           | 2018年4月～12月           | 内容：親子de仲間づくりワークショップ（乳幼児の親子対象）、ココロとカラダの健康ひろば（高齢者対象）<br>講師：新井英夫（ダンスアーティスト）、Ten seeds（劇・遊び・表現活動）          | 目標値      | 1,236 |
|    |                          | 可児市文化創造センター・レセプションホール |  | 実績値      | 1,028 |
| 21 | 世界劇場会議国際フォーラム 2019 in 可児 | 2019年2月7日、8日          | 内容：劇場は社会に何が出来るか、社会は劇場に何を求めているか<br>ゲスト：湯浅誠（法政大学教授）、熊井一記（KAAT 神奈川芸術劇場制作課係長）、ルース・ブロック（シャクシア・スクールズ 財団代表理事） | 目標値      | 120   |
|    |                          | 可児市文化創造センター・小劇場       |  | 実績値      | 82    |
| 22 | 英国人講師による学校ワークショップ        | 2019年1月13日～18日        | 講師：Amy Lancelot（リーズ・プレイハウス）アシスタント：山田久子、清水万里子、かにかっこ英語サポーター、ALT  | 目標値      | 300   |
|    |                          | 可児市子育て健康プラザマナーノほか     |  | 実績値      | 268   |
| 23 | 親子で楽しむワークショップ            | 2018年11月18日           | 講師：西川信廣（演出家、文学座）アシスタント：浅海彩子、佐藤麻衣子（俳優、文学座）  | 目標値      | 20    |
|    |                          | 可児市子育て健康プラザマナーノ       |  | 実績値      | 16    |
| 24 | バリアフリー対応                 |                       |  | 目標値      |       |
|    |                          |                       |  | 実績値      |       |
| 25 | 多言語対応                    |                       |  | 目標値      |       |
|    |                          |                       |  | 実績値      |       |

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

可児市文化創造センターala (アーラ) は、《「芸術の殿堂」ではなく、人々の思い出の詰まった「人間の家」へ》をミッションに掲げ、平成20年度から14年間に渡って『ala まち元気プロジェクト (社会包摂型コミュニティ・プログラムの総称)』を継続的に推進してきた。本プロジェクトにおいて、アーラは現在の社会状況を理解し、それに応じた取り組みをすることで、人々の「経験価値」と、そこから派生するかけがえのない「思い出」と、さらに新しい価値による行動の「変化」とその「生き方」を提供する社会機関としての役割を果たすことを目指しており、国の文化芸術振興費補助金「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択された平成30年度から令和4年度の5か年については、以下に示す「**3本の矢**」をその戦略目標として、本事業の支援対象となっている**全16館の中でも最小クラスの組織体制で、最大限の工夫を凝らしながら効率的に事業を推進してきている。**

ここまで4か年の事業計画の実施状況については、長期化する新型コロナウイルスの影響により、平成31年度および令和2・3年度の事業において、**制作方法および上演形式の変更、実施規模の縮小、事業の中止および延期等の措置**をやむを得ず講じてきた。この間、通勤やレジャーなどの移動制限や職場や家庭でのソーシャル・ディスタンスの確保といった緊急かつ新たな課題への対応など、社会的ニーズにおける大きな変化が到来しており、文化芸術や劇場・音楽堂等においても、**有事におけるセーフティネットとして果たすべき役割を再考すること**を、地域社会から強く求められてきた「試練」の4か年であった。

#### **第1の矢：感動と希望を生み出す＜最高水準の舞台芸術＞の提供**

ala Collection シリーズ、文学座と新日本フィルハーモニー交響楽団との**地域拠点契約公演**、シリーズ恋文、森山威男ジャズナイト、ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団は、継続的に実施し、アーラのレパトリーとしてさらに定着した。また、平成31年度に実施した**日英国際交流事業『To See You, At Last プロジェクト』**は、これまでの国際共同制作にはない公共劇場ならではの切り口の**新しい挑戦**となった。

令和2・3年度の**英国人講師による演劇ワークショップ**および令和3年度の**ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団**は、海外からの入国制限に伴い、やむを得ず招へいを断念した。

#### **第2の矢：人と人とを繋げていく＜市民総活躍社会＞の実現**

**市民活動の発表の場の提供**については、新型コロナウイルスの影響により可児市から利用停止措置等の要請があり、平成31年度から令和3年度の3年間において**平均30%近い稼働率の減少**となっている。

**地域拠点契約の文学座・新日本フィルハーモニー交響楽団による学校アウトリーチや市民参加企画、アーラ未来の演奏家プロジェクト、森山ドラム道場**は、感染防止対策や学校施設の空気環境への配慮が極めて難しく、また学校側においても休校等による授業カリキュラムの大幅な遅れから受け入れが困難との申し入れがあり、多くのプログラムが中止となった。

**大型市民参加企画**は、平成30年度以降、新型コロナウイルスの影響により、実施を見送っている。**アーラ紙芝居一座公演**は作品の映像化に取り組んだ。**町が元気になる処方箋**では、籠橋新館長が衛紀生アドバイザー、平田オリザ氏と共に登壇し、「アーラをつなぐ」をテーマに行政や市民との協働をさらに発展させたいとの思いを参加者と共有し、令和2・3年度の**フロントスタッフ研修**は、ウィズコロナ対策の検討を盛り込んで、講師にOJT形式での実践的なアドバイスを依頼した。令和3年度の**平田オリザの「対話を考えるワークショップ」**はレクチャー形式のみとして規模縮小して実施、**歌舞伎とおしゃべりの会**は日程を延期して可能な限り実施を継続した。

### 第3の矢：生きづらさを解消する文化芸術による<セーフティネット>の構築

多文化共生プロジェクトは、映像作品（クレイアニメーション）およびアフレコのオンライン収録、オンラインインタビューなどの工夫を施して、実施を継続した。

オープンシアター・コンサートおよびみんなのディスコは、特に福祉施設などからの移動・参加が非常に厳しく制限されたため、関係者と協議の末に中止、実施した場合でも参加者数が大きく減少している。

ココロとカラダワークショップは、セーフティネットとしての位置づけから、オンラインの活用や屋外でのアクティビティを取り入れ、コロナ禍でも、さまざまなカタチで可能な限り実施を継続した。

アールみんなのピアノプロジェクト、就学前教育のための非認知能力開発ワークショップなどの子どもたちの健やかな成長を支援する新しい試みが開発され、これまでになかなか文化芸術を届けることができなかった外国籍の子どもたちの層にもリーチする取り組みとなっている。認可外保育施設や保護者との協力により、感染防止対策に留意しながら可能な限り実施を継続した。

### 組織力と制作能力の強化と同時に全国に優れた人材を育成

劇場に関わる人のアーツマーケティング・ゼミ『あーとま塾』は、令和2・3年度ともに、新型コロナウイルスの影響によって事業計画を変更し、年1回の特別編として実施した。令和3年度はオンライン視聴参加を導入し、現地参加が叶わない関係者向けのアクセシビリティの改善も行った。

令和2・3年度の世界劇場会議国際フォーラム、シアターキャンプは、海外からの入国制限に伴い、やむを得ず当該年度中の招聘を断念した。

## 自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

この4か年の総合支援事業の助成における事業計画とその取り組みによって、中・長期的に獲得することができた持続的な成果としての意義から、新型コロナウイルスの影響により、代替的あるいは緊急的な措置として行ったいくつかの施策によって、新たに発見された、今後定着を目指すべき文化芸術によるセーフティネットとしての意義まで含めて、本事業の助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められたと考えられる点について以下に列挙する。

### 第1の矢：感動と希望を生み出す<最高水準の舞台芸術>の提供

ala Collection シリーズ、文学座と新日本フィルハーモニー交響楽団との地域拠点契約公演、シリーズ恋文、森山威男ジャズナイト、ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団は、アールのレパートリーとしてさらに定着し、その安定したクオリティとこれまで培ってきた顧客や参加者との関係性を維持・回復するための「お元気ですかハガキ」や「100%キャンセルサービス」をはじめとする市民に寄り添うマーケティングの実践によって、「アンケート評価」の4年間平均で87.3%という高い顧客満足度を維持している。

平成31年度に実施した日英国際交流事業『To See You, At Last プロジェクト』では、理念を共有し、グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）を締結する英国のリーズ・プレイハウス（LP）との国際共同制作によって、両国の青少年が演劇を通じて出合い、言葉を越えたコミュニケーションの可能性を共に発見する意欲的なプロジェクトとなり、これまでの国際共同制作にない切り口の新しい挑戦によって、アールの掲げるミッション・ビジョンならではの社会包摂をベースとする国際ネットワークの構築・強化につながっている。

## 第2の矢：人と人とを繋げていく<市民総活躍社会>の実現

**大型市民参加企画**は、平成30年度の**オーケストラで踊ろう！**にて、ダンサー・振付家の近藤良平氏（現・彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督）とともに、小学校4年生から75歳までの約50名が年齢や個性、経験の違いを超えて舞台に立ち、長い稽古期間をかけて、一人一人の存在感が輝き、バラつきも含めて「そのまま」というコンテンポラリーダンスならではの特徴が際立つ舞台を創り上げ、同時に、知らないもの同士がお互いを認め合っていく豊かなプロセス（経験価値）とそこから派生するかけがえのない仲間との思い出を創出した。

**ミュージカル『君といた夏』**は、令和2・3年度ともに新型コロナウイルスの影響によって開催中止なり、令和4年度へ順延となった。令和3年度は代替企画として**THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022**を制作し、参加希望者の有志が自ら撮影した挿入歌とダンスの映像、これまでの舞台公演映像と作者の瀬戸口郁（文学座）のナレーションを加えてYouTubeで公開し、来年度の作品上演への願いとアーラとのつながりの維持・回復への思いを共有した。

## 第3の矢：生きづらさを解消する文化芸術による<セーフティネット>の構築

**多文化共生プロジェクト**は、令和2年度に演劇作品の代替企画として映像作品（クレイアニメーション）およびアフレコのオンライン収録をおこなった『**Trabalho** **トラバークユ〜ある、私の人生**』、令和3年度に『**こころの井戸**』を上演、多様な言語や文化的背景を持つこの地域の人々と共にドキュメンタリー演劇の手法を活かした作品を制作した。令和3年度はフィリピン、ブラジル、日本、インドネシア、タイ、イラク、スリランカなど多様なルーツを持つ方へのオンラインインタビューを行い、時間と場所の制約を飛び越えて創作に参加できる可能性が広がったと同時に、定期的なオンライン稽古を通じた情報交換が、コロナ禍で孤立しがちな外国籍市民の不安な状況を解消するセーフティネットとして機能した面が見られた。

**ココロとカラダワークショップ**では、講師がオンラインを通じてカメラ片手に自らの住むまちの様子を実況中継したり、参加者が自宅の庭の様子を紹介したり、一つの空間を共有して行われる通常のワークショップとは一味違うオンラインならではの双方向性を発揮した。対面型の交流ができない分、DVDや手紙をやり取りするなど、新・旧のコミュニケーションツールをうまく活かすことで参加者同士がお互いの健康状態や日常の様子を伝え合えるなどワークショップによる「見守り機能」を発揮し、メンタルヘルスの維持に資することができた。

また、高齢者ワークショップの参加者が、自主的な活動として皆で小さな菜園をつくり、実ったとれたての野菜を乳幼児のワークショップに参加している親子にプレゼントするなど、一つ一つの事業の枠組みを越えた多世代間での交流の素地が生まれてきており、新たなつながり（助け合い・支え合い）へと発展していく手応えを感じつつある。

(2) 有効性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

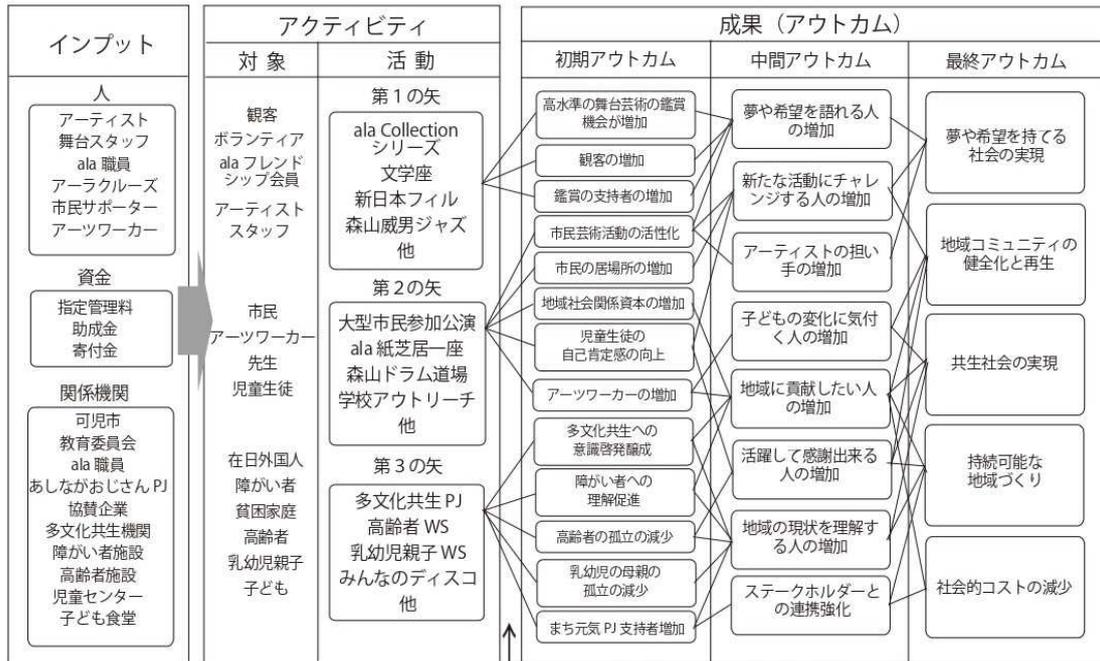
自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

平成30・31年度は指標に掲げた数値目標の達成に向けて順調に推移してきたが、令和2・3年度は新型コロナウイルスの影響によって実施事業数がそれぞれ全21事業中9事業と全29事業中19事業に留まっている。

下記の分析のとおり、目標の達成、アウトカム発現の可能性を高めるために、可能な限りの工夫を施しながら事業計画を推進してきているが、今後は、従来のロジックモデルにアフターコロナにおけるさまざまな社会変容を加味した上で、アウトカム発現の可能性を高めるための更なる手立てを講じるが必要となってきた。

まち元気プロジェクトロジックモデル



\*上の矢印に位置するアウトプットは以下の【目標】として記載しております。

第1の矢：感動と希望を生み出す＜最高水準の舞台芸術＞の提供

目標：【多様なニーズへの対応】【幅広い層への鑑賞者拡大】【クオリティ・顧客満足度】

総合支援事業一覧\_アウトカム及び目標・指標 2018-2021年集計

| 第1の矢・目標項目                               |                                     | 目標指数           | 実績     | H30年   | H31年   | R2年      | R3年         |
|---|-------------------------------------|----------------|--------|--------|--------|----------|-------------|
| 【多様なニーズへの対応】<br>ジャンルバランスの取れた公演の実施       | 多様なジャンルの公演実施                        | 5年間で延べ250公演以上  | 180    | 58     | 73     | 17       | 32          |
|   | 公演ジャンルのバランスが取れている※アーラ鑑賞モニターアンケートより  | 80%以上          | -      | -      | 80%    | コロナ禍の為中止 | コロナ禍の為、計測不能 |
| 【幅広い層への鑑賞者拡大】<br>市民に寄り添うマーケティングによる鑑賞者開発 | アーラフレンドシップ会員数 ※2017年度会員数12,457人より加算 | 15,000人        | 15,037 | 13,471 | 14,301 | 14,444   | 15,585      |
|   | パッケージチケットの販売数                       | 5年間で延べ4,000セット | 2,906  | 1,024  | 1,193  | -        | 689         |
|   | 「あしながおじさんプロジェクト」参加者数                | 5年間で延べ1,000人   | 526    | 254    | 146    | 40       | 86          |
| 【クオリティ・顧客満足度】<br>水準の高い舞台芸術による顧客満足度の向上   | 主催・共催(有料)の劇場鑑賞者アンケート評価              | 80%以上          | 87.3%  | 85.0%  | 83.2%  | 90.1%    | 91.0%       |
|   | 日本を代表する芸術団体との地域拠点契約の締結              | 2団体維持          | 100.0% | 2      | 2      | 2        | 2           |
|   | プロフェッショナルな自主制作公演の創造                 | 5年間で延べ10本      | 9      | 3      | 3      | 0        | 3           |

**分析：【多様なニーズへの対応】**については、令和2・3年度に実施公演数が減少したものの、5年間ではほぼ目標を達成できる見込みである。**【幅広い層への鑑賞者拡大】**については、パッケージチケットの販売は令和3年度に例年比30%以上落ち込んだものの（令和2年度は大規模改修のため販売せず）、令和4年度は速報値（5/10現在）で920セットと例年水準に匹敵する「回復基調」にある。**【クオリティ・顧客満足度】**についても、当初の目標を達成する見込みであり、前述の通り、アンケート評価では4年間平均で87.3%という高い顧客満足度を維持していることから、市民に寄り添うマーケティングの実践による顧客との関係性維持・回復策が功を奏したといえる。

## 第2の矢：人と人とを繋げていく＜市民総活躍社会＞の実現

目標：【市民活動・人材】【地域コミュニティ・仲間】【教育現場・友達】

| 第2の矢・目標項目  |  | 目標指数             | 実績             | H30年   | H31年   | R2年          | R3年    |
|--|--|------------------|----------------|--------|--------|--------------|--------|
| 【市民活動・人材】<br>文化芸術活動が安定して継続していく好循環を実現する。(A)貸館事業により市民による自主的な文化活動を応援する。(B)実演芸術科(講師)やコミュニティーアーツ・ワーカーを育成する。 | (A)貸館事業「年間180回公演以上」受け入れ  | 年間180公演以上        | 110.8          | 186    | 167    | 12           | 78     |
|  | (A)貸館事業毎に担当をつける「制作サポートサービス」の100%実施   | 100%             | 100.0%         | 100.0% | 100.0% | 100.0%       | 100.0% |
|  | 実演芸術家(講師)やコミュニティーアーツ・ワーカーの育成機会   | 5年間でのべ40事業以上     | 27             | 9      | 10     | 2            | 6      |
| 【地域コミュニティ・仲間】<br>一般市民公募の持続的なワークショップの主催・支援などにより、地域文化を後押しする。文化を基底にした多様なコミュニティ形成を行っていく。                   | コミュニティ形成事業数を目的とする事業を「5年間でのべ60事業以上」実施   | 60事業以上           | 41             | 13     | 13     | 3            | 12     |
|  | ワークショップ系事業の参加者によるアンケート評価「居場所づくり」「新しい仲間ができた」または「居場所になっている」が80%以上(2020年より)           | 80%以上            | 93.1%          | 91.8%  | 97.3%  | コロナ禍の為ZOOM交流 | 90.4%  |
| 【教育現場・友達】<br>学校の先生に演劇ワークショップの効果体験・理解してもらい、児童生徒のワークショップの理解を深める。   | 学校の先生や生徒へのワークショップとして、「5年間でのべ25事業450回以上」実施する。                                       | 5年間でのべ25事業450回以上 | 4年間でのべ17事業185回 | 5事業89回 | 9事業75回 | コロナ禍の為中止     | 3事業21回 |
|  | 児童・生徒向けのアンケート評価「学級単位の関係づくりと一人一人の個性や多様性への理解」「新しい仲間ができた」または「居場所になっている」80%以上(2020年より) | 80%以上            | 94.4%          | —      | —      | コロナ禍の為中止     | 94.4%  |
|  | 先生向けのアンケート評価「クラスづくりへのワークショップ手法の応用」「今後の学級経営に活かしたいことがあった」90%以上                       | 90%以上            | 98.8%          | 100%   | 100%   | コロナ禍の為中止     | 96.4%  |

**分析：【市民活動・人材】**については、新型コロナウイルスの影響により利用停止措置等が大きく響き、貸館事業の減少が約30%と厳しい状況にある。**【地域コミュニティ・仲間】**については、ココロとカラダワークショップをはじめとするセーフティネットとしてのコミュニティ形成事業を可能な限り継続的に実施したことから、5年間で当初の目標をほぼ達成できる見込みである。ワークショップ系事業のアンケート評価は4年間平均で93.1%と非常に高い水準を維持している。**【教育現場・友達】**については、国・県等の自粛要請や教育委員会および学校現場の事情から一律に受け入れ困難との判断が示されたことから、当初目標を大幅に下回ることになる見込みである。分析結果からも明らかのように、新型コロナウイルスの影響によるニーズや対応の変化は、劇場・音楽堂等が地域社会の有事におけるセーフティネットとして果たすべき役割の再考を強く促すものであると捉えており、可見市および市の教育委員会（教育研究所）とは、今後想定される不登校児童の増加に関する対策について協力して取り組んでいくこととしている。

### 第3の矢：生きづらさを解消する文化芸術による<セーフティネット>の構築

目標：【多文化共生】【貧困対策】【高齢化社会】【母親の孤立化】【障がい者】

| 第3の矢・目標項目  |  | 目標指数                   | 実績     | H30年        | H31年        | R2年          | R3年        |
|--|--|------------------------|--------|-------------|-------------|--------------|------------|
| 【多文化共生】<br>外国人居住率7%という可見市において、誰もが安心して生活できる多文化共生社会の実現                 | 「多文化共生プロジェクト」事業参加者数  | 5年間で延べ550人以上           | 486    | 118         | 140         | 53           | 175        |
|  | 多文化共生プロジェクトの鑑賞者アンケート評価「多文化理解」「多文化への理解が促進」80%以上（2020年より）        | 80%以上                  | 87%    | —           | —           | 映像作品のため測定不能  | 87%        |
| 【貧困対策】<br>貧困世帯やひとり親家庭など、様々な事情を抱える子どもや家庭に対し、文化芸術体験を等しく提供していく。         | 「私のあしながおじさんプロジェクト」For Family 公演鑑賞者数                            | 5年間で延べ800人以上           | 311    | 160         | 85          | 25           | 41         |
|  | 「みんなのピアノプロジェクト」参加者数  | 5年間で延べ1,500人以上         | 965    | 112         | 447         | 186          | 220        |
| 【高齢化社会】<br>文化施設として、高齢者の仲間づくりや生きがい発見の場としての役割を担う。                      | 「ココロとカラダの健康ひろば」参加者数  | 5年間で延べ1,500人以上         | 920    | 406         | 323         | 72           | 119        |
|  | 「ココロとカラダの健康ひろば」参加者アンケート評価「健康」「心と身体が解放された」90%以上                 | 90%以上                  | 97.0%  | 93.8%       | 97.3%       | コロナ禍の為ZOOM交流 | 100.0%     |
|  | 「ココロとカラダの健康ひろば」参加者アンケート評価「健康」「新しい仲間が出来た」90%以上                  | 90%以上                  | 93.2%  | 91.8%       | 97.3%       | コロナ禍の為ZOOM交流 | 90.4%      |
| 【母親の孤立化】<br>乳幼児を抱える母親の孤立化を防止と悩みなどを相談できる仲間づくり                         | 「親子de仲間づくりワークショップ」事業の参加者数                                      | 5年間で延べ3,000人以上         | 1516   | 622         | 532         | 16           | 346        |
|  | 「親子de仲間づくりワークショップ」参加者アンケート評価「悩み・育児ストレス」「育児ストレスの軽減になった」90%以上    | 90%以上                  | 92.3%  | 100.0%      | 100.0%      | コロナ禍の為ZOOM交流 | 76.9%      |
|  | 「親子で楽しむワークショップ」参加者数  | 5年間で延べ75人以上            | 35     | 16          | 19          | 中止           | 中止         |
| 【障がい者】<br>障がいの有無に関わらず、文化を楽しむことが出来る環境づくりを推進すると共に、障がい者への理解が深まる事業を実施する。 | 障がい者への理解を深める事業参加者数   | 5年間で15回、参加者は延べ6,000人以上 | —      | 3回<br>1618人 | 3回<br>1203人 | 中止           | 2回<br>539人 |
|  | 障がい者への理解を深める事業の参加者・鑑賞者アンケート評価「障がい者への理解」「理解が深まった80%以上」（2020年より） | 80%以上                  | 100.0% | —           | —           | 中止           | 100%       |

**分析：【多文化共生】**については、コロナ禍を経て、多文化共生プロジェクトへの事業参加数が大幅に増加していることから、孤立しがちな外国籍市民の不安な状況を解消するセーフティネットとして機能したと言える。

**【貧困対策】**については、私のあしながおじさんプロジェクト For Family など「公演鑑賞」をベースとした対策が、感染症対策や自粛ムードから効果的に機能しなかった側面が見られた。令和4年度からは貧困家庭や子どもたちに豊かな「つながり」を処方するための取り組みを強化する。**【高齢化社会】**については、ココロとカラダワークショップの実施回数が減少したことに伴い、延べ参加人数も減少した。対面実施については既往症等健康上の問題、オンライン開催はリテラシーや通信環境の問題といった障壁が顕在化した一方、数値には現れない「見守り機能（DVD、手紙のやり取り）」も発揮しており、アンケート評価では非常に高い顧客満足度（4年平均「心と体が解放された」97.0%、「新しい仲間ができた」93.2%）を維持している。**【母親の孤立化】**については、乳幼児への感染リスクを考慮して対面実施を断念したケースが多く、アンケート評価からも「悩みや育児ストレスの解消」への効果が表れにくかったことが伺える。**【障がい者】**については、福祉施設などからの移動・参加が厳しく制限されたため、事業の中止が相次ぎ、事業参加者数も目標を大きく下回っている。

### (3) 効率性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

平成30・31年度はほぼ当初の計画通りに順調に進んできたが、令和2年度は、1月初旬まで施設の大規模改修だったことに加え、新型コロナウイルスの影響によって、対象となる全21事業のうち12事業が中止となり、9事業が日程・会場・内容・方法等を変更しての実施となった。

令和2年度の大規模改修中に実施を予定していたアキラ未来の演奏家プロジェクトや新日本フィルハーモニー・文学座との地域拠点契約によるアウトリーチプログラム、子育て支援センター・マノでのひとり親家庭向けのワークショップ、リーズ・プレイハウスの英国人講師による演劇ワークショップなどは期間を延期することなどが難しく、やむを得ず開催を断念することになった。

実施した事業においては、多文化共生プロジェクトおよびココロとカラダワークショップの2事業を5月～12月にかけてオンラインを活用するなどして開催した。

多文化共生プロジェクトでの映像作品(クリエイション)制作は、コロナ禍での妥協案としてのオンラインでの活動として始まったが、活動の場がアキラから参加者の自宅に変わったことで、これまで参加の難しかった妊婦や在宅介護中の方、地球の反対側(ブラジル)に住んでいる参加者の家族などの参加も可能となり、過去最多の総勢53名が参加。約半年に渡って計18回、それぞれに不安を抱える時期の定期的なオンライン上での集まりによって、仲間の存在を確認し支え合えたことは、「つながり」の持つセーフティネットとしての価値を実感する上でも重要な経験であった。

それ以降、残り7事業については、施設一部再開後の10月の歌舞伎とおしゃべりの会から3月の文学座『昭和虞美人草』まで、通常時の客席数の50%以下を定員としてオフラインでの開催とし、期間内に実施完了した。なお、劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ『あーとま塾2020』については、回数・内容を変更した「特別編」とし、ゲスト講師・スタッフおよび参加者全員がPCR検査を受診した上での少人数・オフライン開催とした。

令和3年度も、引き続き新型コロナウイルスの影響によって、対象となる全29事業のうち10事業が中止となり、19事業も日程・会場・内容・方法等を変更するなど工夫を施しながらの実施となった。

アキラ未来の演奏家プロジェクトや子どもの居場所支援事業子ども食堂おでかけ演劇ワークショップなどは期間の延期も含めて検討したが、デルタ株・オミクロン株と続く変異株の波によって年度内での開催を断念することになった。

ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団はじめ世界劇場会議国際フォーラム、シアターキャンプ、英国人講師による演劇ワークショップなど海外からの招へい手続きを伴う事業については、14日間の自主隔離政策や政府による水際対策措置の強化等により実施が不可能となった。

新日本フィルハーモニー・文学座との地域拠点契約によるアウトリーチプログラムは、日程を変更して実施することができた。

実施した事業においては、君といた夏～スタンドバイミー可児～の代替企画として THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022の映像制作を実施した。稽古での感染リスクを抑えるため、参加者自身が挿入歌とダンスの動画を収録し、過去の公演の舞台映像とナレーションを加えて編集する方式を採用。参加者の中には、10年以上前のプロダクションに子役として出演し、現在は地元を離れて国内・海外で舞台人として活躍しているOBメンバーも参集することが可能となり、参加した子どもたちの変化や成長を共有できる機会になったとともに、

本プロジェクトが生み出してきた文化芸術の人材育成（アーツワーカー）の成果が可視化される試みとなった。

その他、**みんなのディスコ**や**ア－ラ紙芝居一座**、**あ－とま塾**においても、オンラインによって、福祉施設をつないだダンス交流企画やアニメーション映像化、対面参加とオンライン視聴参加を選択できるハイブリッド開催などを採用することなどで、前年度の事業計画よりも幅広い層の参加者に対し、事業参加へのアクセシビリティを高めるような工夫を施すことができた。

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

下表は、平成30年度から令和3年度までの4か年における事業計画上の申請時予算額と報告時決算額および両者の実績差額と実績乖離を示したものである。

| 種別         | H30年   | H31年   | R2年    | R3年     |
|------------|--------|--------|--------|---------|
| 申請時予算額(千円) | 76,015 | 65,486 | 50,155 | 116,767 |
| 報告時決算額(千円) | 66,843 | 59,181 | 19,506 | 98,766  |
| 実績差額(千円)   | 9,172  | 6,305  | 30,649 | 18,001  |
| 実績乖離(%)    | 12.1%  | 9.6%   | 61.1%  | 15.4%   |

#### 分析：

平成30・31年度においては、**オーケストラで踊ろう！**や**To See You, At Last**プロジェクト、**世界劇場会議国際フォーラム**、**多文化共生プロジェクト**、**シアターキャンプ**、**英国人講師によるワークショップ**など、作品創造型のコミュニティ・プログラムおよび海外からの招へい型コミュニティ・プログラムにおいて、支出の申請時予算額と報告時決算額の一部乖離が生じていた。これらに関しては、渡航費や報酬額の負担割合、台本や舞台製作規模、同時通訳などの環境整備に関する細かな要因が未確定の状態で見舞に沿って予算案が建てられている場合が散見されたことから、その後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理を心がけている。

令和2・3年度においては、新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や規模縮小が相次ぎ、**令和2年度は全21事業のうち12事業**、**令和3年度は全29事業のうち10事業が中止**となり、また実施した事業においても、規模を大幅に縮小したものが多かったことなどから、申請時予算額から報告時決算額が大幅に乖離を生じる結果となった。また、中止に伴う出演補償として、それぞれの契約や覚書にて定めた補償金の支出が発生した。併せて、当館の主催・共催公演およびワークショップ・講座企画等の出演者およびスタッフ全てにPCR検査の受診を義務付けたことにより、各事業において検査関連経費が膨らむことになった。

## (4) 創造性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

#### 劇場・音楽堂等の資源について

##### ◇キーパーソンの存在

これまで14年間に渡って、当館の事業計画が独創性、新規性、先導性を発揮するための「キーパーソン」であった衛 紀生が平成2年度で館長兼劇場総監督を退任、**平成3年度の5月から箆橋義朗が新館長に就任した。**箆橋は、可見市文化創造センター開館準備室事業計画係長としてアーラの建設と事務局立ち上げに携わり、平成14年度に開館。以後、初代館長・桑谷哲男、2代目館長・衛 紀生を招聘し、その女房役の事務局長として10年間に渡り当館の経営に「二人三脚」で取り組んだ。前職は可見市教育長であり、可見市政・教育行政のみならず地元経済界にも明るく、可見市内外に緊密なネットワークを持ち合わせる人物である。

文化芸術プログラムの企画面における制作体制については、これまでの「劇場総監督主導」の体制から、新館長の下で、3人のチーフ級職員(音楽系：坂崎裕二、演劇・ダンス系：澤村 潤、コミュニティ・プログラム：栗田康弘)による「共同プロデュース体制」を敷き、当面は、**衛が「シニアアドバイザー」**として月1～2回のペースで可見に赴き、事業計画立案上のアドバイスや内部ゼミ・外部向け研修プログラム等の監修にも携わる。

##### ◇フランチャイズ団体・提携団体の存在

これまでに引き続き、国内の提携団体として、当館はそれぞれ高水準な芸術性と多様な文化芸術人材を発掘・養成するノウハウを持つ新日本フィルハーモニー交響楽団と文学座の2団体と「地域拠点契約」を結んでいる。これにより本公演のみならず、障がい者や乳幼児を抱える親たちが気兼ねなく楽しめるオープン・シアター・コンサートや夏休みの子供たちのために市民と一緒にお芝居をつくるプロジェクト、ワークショップや小中学校・福祉施設などに出向くアウトリーチ、鑑賞者との茶話会など、質の高い様々な活動を地域に提供している。

また、英国リーズ・プレイハウス (LP) との間で2015年3月に締結された「グローバル提携 (人事交流および国際共同制作に関する提携)」があり、両館が共有する「地域に開かれ、地域と共に生きる劇場」という理念に沿って、高水準の鑑賞公演を制作するだけでなく、青少年が演劇を通じて出合い言葉を越えたコミュニケーションを共に発見する演劇プロジェクトや、クリエイティブ・エンゲージメント部門スタッフの指導による演劇ファシリテーター入門プログラムや学校ワークショップなどを通じて、英国におけるコミュニティ・アーツワーカー(地域課題に取り組む芸術家)の役割や実践を学んでいる。

#### 事業の独創性・新規性・先導性について

##### ① 独創性

###### 多文化共生プロジェクト、就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ

市内の外国籍居住率が7.9%という可見市において、様々な国籍の住民が文化芸術(主に演劇表現)を介して交流することで、お互いの限定されたコミュニティからより広い地域社会とつながることを目的としている。作品づくりを通じて協働し語り合い、作品を鑑賞した市民がそのルーツや文化的背景を知ること、様々な国籍の住民が互いを尊重し合える寛容で生きやすい「多文化共生社会」を築こうという可見市特有の社会課題にアプローチしたプロジェクトであり、また我が国が今後直面することになる大きな課題に向けた先行的取り組みでもあることから<独創性>と<先導性>を備えていると考えている。また令和2年度からは、地域コミュニティとの接点が限定されやすい外国籍の子どもたち(小学校入学前)を対象としたワークショッププログラムの開発・検証に取り組んでおり、子どもたちの持つ非認知能力を高めることで、多様な国籍の市民が集い相互に支え合っ

地域社会を活性化していくことができる可見市ならではのまちづくりに貢献することを目指している。

## ② 新規性

### リーズ・プレイハウスとのグローバル提携～日英国際交流事業『To See You, At Last プロジェクト』

劇場運営の理念を共有し、グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）を締結する英国のリーズ・プレイハウス（LP）との国際共同制作であり、両国の青少年が演劇を通じて出会い、言葉を超えたコミュニケーションの可能性を共に発見していく意欲的なプロジェクトである。これまでの国際共同制作にはない切り口の新しい挑戦によって、アーラの掲げるミッション・ビジョンならではの社会包摂をベースとした国際ネットワークの構築・強化につながっており、今後、LP 所属のユースシアター活動や移民プログラムとの国際的かつ持続的な共創関係が実現すれば、SDGs（Sustainable Development Goals）の目標（子どもの貧困に関すること）にも貢献することのできる国際共同制作プログラムとして、新たな局面を開く可能性を秘めており、<新規性>を備えていると考える。

## ③ 先導性

### ココロとカラダワークショップ

当館のプログラムの特徴は、障がい者や乳幼児を抱える親、高齢者、不登校の子どもたちなど「生きづらさを抱える人々（市民）の居場所づくり」を目指したコミュニティ・プログラムが豊富にある点である。ダンスアーティストの新井英夫、劇・あそび・表現活動の Ten Seeds といった「ココロとカラダワークショップ」の講師陣は、いずれも専門ジャンルで優れたスキルを有しているだけでなく、参加者が気持ちよく過ごせるよう、場を整えるコーディネーターとしても高い能力を有している。令和 2 年度からはコロナ禍で創意工夫し、対面のワークショップとは一味違う「オンラインならではの双方向性」を楽しむプログラムとなった。新しいコミュニケーションツールをうまく活かすことで「見守り機能」を発揮しており、少子高齢化社会の課題解決に対応する<先導性>を備えていると考える。

### 劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾」

顧客志向の劇場マーケティングと社会包摂によるコミュニティ・プログラムのあり方について、理論としてその必要性を説明するだけでなく、参加者自らが事業のロジックモデル作成などを行うことでその仕組みを咀嚼して理解し、より具体的に双方向で学べる研修であり、劇場経営人材の育成と国内のネットワークづくりに貢献している点において、アーラならではの<先導性>を備えていると考える。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

この 4 か年の総合支援事業の助成による事業の実施によって、当館の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）具体的な事象について以下に列挙する。

### ◆マスメディアへの露出状況

#### ○新聞掲載件数：（4 年通算）134 件

平成 30 年度：31 件／平成 31 年度：42 件／令和 2 年度：25 件（施設改修年度）／令和 3 年度：36 件

### ◆視察・実務研修の受け入れ状況

#### ○視察受け入れ状況（4 年通算）89 件

平成 30 年度：38 件（312 人）／平成 31 年度：36 件（312 人）／令和 2 年度：5 件（35 人）／令和 3 年度：10 件（286 人）＊その他、オンラインでのヒアリング多数

## ○実務研修受け入れ状況：(4年通算) 2件

令和2年12月10日～16日：

劇場音楽堂等スタッフ交流研修事業 河内律子（一般財団法人宇部市文化創造財団）

令和3年6月16日～10月10日：

実務研修の受け入れ 三宅拓（公益財団法人豊田市文化振興財団）

## ◆芸術的な評価について

### ○SNS等での観客や参加者の反応

・ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』では、アーティスト・イン・レジデンスで交流した可児市民にわがまちの演劇作品という意識が芽生え、可児公演だけでなく東京公演やツアー公演も SNS にて PR を展開した。主演の平体まひろが文化庁芸術祭賞新人賞を受賞した際には、可児市民から電話や窓口で直接お祝いの言葉や「わがまちの誇り」という声もいただき、可児市への愛着やシビックプライドの醸成に寄与できた。

・Facebook 登録者は平成 29 年度では 1,000 人未満であったが、令和 3 年度末時点で 1,886 人となった。男女比は女性 52.5%、男性 47.5%。登録者の居住地は可児市が 20.5%と最も高く、岐阜県全体で約 60%、県外が約 40%であった。可児市内では、多くの情報を月刊広報誌 ala Times や公式ホームページで得ていることもあり、Facebook においては、アールの運営や事業に興味のある県外の登録者が比較的多くなっていると分析する。

・また、長引くコロナ禍において、顧客の情報へのアクセシビリティを向上するとともに、観客や参加者との双方向的な情報交換が活発化することを目指して、令和 3 年 4 月より Twitter の活用も開始した。

・アールフレンドシップ会員数は、平成 29 年 3 月末で 12,457 人（うち岐阜県在住 9,395 人）であったが、令和 4 年 3 月末で 15,585 人（うち岐阜県在住者 11,424 人）となり、4 年間で会員数が 25.1%増加した。特に、令和 3 年度は大規模改修後のリニューアルを期待していた方も多かったことから、1 年間で 1,155 人増加した。

### ○観客アンケート

・令和 2 年度 新日本フィルハーモニー交響楽団アール・リニューアル記念コンサートの来場者アンケート（アンコールで「シンニチテレワーク部」で話題となった「パプリカ」を演奏に関して）

「楽団員が新型コロナウイルスの影響で公演中止が続き、先が見えない中でもがきながらも頑張っているニュースをテレビで見ました。辛いのは私だけじゃないんだから、もう少し我慢して、つらい自粛生活を乗り越えようという気持ちになりました。」（70代・女性）

・令和 3 年度 ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』可児公演の来場者アンケート

（国の緊急事態宣言発令による一部公演中止と客席が間引き設定された公演で鑑賞されたお客様から）

「せつなくて涙が出ました。内容も演技もすごくいいのに（新型コロナウイルスの影響で）大勢の人が観られないのが残念です。最後の拍手ももっと大きく出来たらよかったのに…と思います。このご時世で、心がちょっと弱っている、こんなときにこそ観られて本当に良かったです。」（70代・女性）

・令和 3 年度小曾根真 60th anniversary ソロ・リサイタル・ツアーの来場者アンケート

（「私のあしながおじさんプロジェクト」に応募して鑑賞していた中高生の生徒さんたちを見かけた方から）

「ところどころにお子様がお一人で鑑賞されているのを見かけました。大変真剣な様子で聴いていらっしゃいました。こうしたお子様には特別席を設けて、前列の見やすい席を設けてあげて欲しいと思いました。ヨーロッパのコンサートでは、必ずお子様は前列でとても手厚くしていたことに感銘を受けたのを覚えています。」

（50代・女性）

### ○創造作品や出演者の受賞

- ・令和3年度 ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』より  
**令和3年度（第76回）文化庁芸術祭賞芸術祭新人賞 平体まひろ（文学座）**
- ・令和3年度 地域拠点契約／文学座公演「昭和虞美人草」より  
**令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞 マキノノゾミ（劇作家・演出家）**

### ○専門誌等での批評

ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』では、読売新聞夕刊(2021年11月2日付)の「10月の演劇担当記者が振り返る」欄にて「文学座の若手、平体まひろが『紙屋悦子の青春』で好演した」(祐成秀樹記者)、「彼女の美しく無駄のない所作は、昭和の女性そのもの」(木村直子記者)など高い評価を得た。

### ○第三者機関での実績

- ・ala Collection シリーズの国内ツアー公演（他の劇場による買取）  
平成30年度：3か所（宇都宮、長岡、四日市）
- ・シリーズ恋文の国内ツアー公演（他の劇場による買取）  
平成30年度：1か所（能代市）  
平成31年度：3か所（豊田市、豊橋市、能代市）

### ◆社会的な評価について

#### ○SNS等での観客や参加者の反応

・令和2年5月、コロナ禍で先の見えない不安の中で家に閉じこもるしかない市民を勇気づけようと、令和2年5月に「お元気ですかハガキ」をワークショップ参加者や市民参加事業に参加していた市民などに職員直筆のメッセージを添えて1,467名に送付した。お礼のハガキやお礼の電話をいただき、「手紙が届いて嬉しくて涙ができました。アーラがあって良かった。コロナが収まったら、たくさん通います。」(60代・女性)「みんなに会いたいです、一人じゃないと思ったら自粛生活も頑張ろうと思えた。」(70代・男性)など、コロナ禍で孤立しがちな高齢者などとの関係をつなぎ止め、希望へとつなげることができた。

・「キミナツムービー」では、YouTube作品に切り替えたことにより、参加者同士がSNSで交流する機会ができた。「作品に関われたこともうれしかったけど、みんなと繋がれてうれしかった。」(20代・男性)などコミュニティの維持に果たした役割も大きかった。

・「みんなの同窓会」は、アーラの市民参加企画や多文化共生プロジェクトなどに参加した市民、スタッフが年に一度再会するもう一つの我が家のような場所で、令和3年度は新型コロナウイルスの影響で9月4日にオンラインでの開催となった。「シャンソンを習い始めた」「配信で表現活動を始めた」など多くの方がコロナ禍を機に新しいことを始めたことを報告しつつ、出演した公演時の思い出話を花を咲かせ、「大きくなったね～」とこどもたちの成長を喜び合い、後日参加いただいた方から、「みんなの成長、そして繋がっていることが、自分にとっては喜びです」(60代・女性)とメールがあり、「遠くにいてもあの頃に戻れる場所がある。その場所とは建物のことではなく「思い出」とそこに集まる「人」のことなのだ」と熱く語る参加者(50代・女性)もおられた。

#### ○YouTubeでの公開映像

- ・多文化共生プロジェクト2020『Trabalho トラバーユ～ある、わたしの人生』 **1,079回再生**
- ・森山威男 TRIO JAZZ LIVE 3部構成 **のべ9,370回再生**

- ・ THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022 792 回再生
- ・ 劇場に関わる人のための『あーとま塾 2022』特別篇 148 回再生
- ・ アーラ紙芝居一座『うさきちとカメ太とカメ次郎』A と B チームのべ 506 回再生

### ○参加者アンケート

#### ・ココロとカラダの健康ひろば（2018 年度）のアンケート調査結果

「新しく友人ができた」92%、「外出・何かに参加する機会が増えた」72%、「ココロとカラダが解放された」94% →心身の健康に優位に作用、人と人とがつながり支え合う関係構築に寄与、その後、コロナ禍においては、参加者同士で互いに電話や SNS で連絡を取り合うなど「緩やかなセーフティーネット」に発展した。

#### ・親子 de 仲間づくりワークショップ（2018 年度）のアンケート調査結果

「育児ストレスの軽減になった」100%、「子どもの接し方の参考になった」100%、「子どもの新しい一面に気づいた」98% →子育て支援として機能、「育児ストレスの解消」など支え合う友達関係に寄与。

#### ・多文化共生プロジェクト「心の井戸」（2021 年度）の来場者アンケート

「相手を『想い』『尊敬する』心を感じました。(60 代・男性)」、  
「水→井戸で世界とつなぎ、それぞれの国の考え方を伝えようとした脚本がすばらしかった。各国の考え方、文化を伝えるのは国がやらなきゃいけない事かもしれないが、可児から全国へ広がるように！(50 代・男性)」、  
「外国人の方の動きが伸び伸びしてとてもよかったです。井戸を通していろいろな人の人生に触れることができたような気持ちになりました。(50 代・女性)」

→人口の 7.9%が外国籍住民の可児市でも、日本人と外国人の日常的なコミュニティは分かれており、本事業をきっかけに互いの文化を知ることができたという人が増え、地域における多文化共生への理解が促進していると読み取れる。

#### ・新日本フィルハーモニー交響楽団 おでかけコンサート（2021 年度）での学校の先生アンケート

「すてきな演奏をありがとうございました。コロナ禍でこのような「プロ」の演奏に触れる機会は今年も無理かと一度は諦めましたが、やっぱり来ていただけて本当によかったです。子どもたちの表情も輝いていました。子どもたちの音楽の授業はだいぶ制限があり、子どもたちの合唱はもう 2 年近くできておりません。身体いっぱい音楽に触れたり、表現する機会を失われている子どもたちなので、こういう機会は本当にすばらしいし、必要だと思います。(広見小学校・教員)」

→コロナ禍で制限を感じている子どもたちに生の舞台芸術を提供することで心の解放に寄与できたことが、現場の教員方の子どもたちを案じる心的負担の緩和にも効果を発揮していることが伺える。

### ○著名人の評価・さまざまな専門誌等（文化芸術ジャンル以外）での特集

#### ・姜 尚中（東京大学名誉教授／政治学）

「…この間、岐阜県可児市にある、文化創造センターというところを見学に行っただけです。…ここでは高いお金を出して劇を見たりコンサートを楽しむのではなく、そういう場を可能な限り安く提供するにはどうしたらいいかを工夫して、貧困世帯の子どもに高校生が勉強を教えたり、市民参加プロジェクトを率先してやっています。…ある種の社会的機能を建物に持たせている。…弱者をウエルカムして、取り込んでいく。取り込んで序列化するのではなく、取り込んだ人同士の関係性をうまく扱っていこうという相互扶助がちゃんと行われている…」

(『世界最終「戦争」論 近代の終焉を超えて』集英社新書 2016 (内田樹と共著) より抜粋・P243-)

#### ・湯浅 誠（社会活動家／東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

「この 10 年で、観客数を 3.7 倍に増やした劇場がある。可児市文化創造センター・アーラ (ala)。岐阜県可児市

立の公立劇場だ。世界的に著名なオーケストラ指揮者を呼んだのか？人気芸人と特別なパイプでもあるのか？  
どちらでもない。地元の人たちに、アートを通じた体験の機会を多様に提供してきたのだ。何のために？生活課題・社会的課題の解決のために。…社会的包摂の推進に、アートが果たせる役割はとて大きいー大きな収穫のあるインタビューだった。（『劇場は、芸術ではなく、人のためにある 観客数を3.7倍にした劇場がやっていること』Yahoo!ニュース 2018より抜粋）

・『**社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法**』（西智弘編 第11回不動産協会賞（2020）受賞）  
「…alaが配るクリアファイルの表には「WE ARE ABOUT PEOPLE, NOT ART（私たちは崇高な芸術ではなく『人間』についての仕事をしている）」の文字が刻まれている。これからの劇場、そしてそれを取り巻くアートの数々がもつ社会的包摂の機能は、社会的処方としての大きな可能性を秘めた分野だ。」（6章「リンクワーカーから見た社会的処方のタネ」より抜粋 p184-191）

・**これからの地方自治を創る実務情報誌『月刊ガバナンス』2021年10月号（ぎょうせい）**  
「もともと保険医療の分野で進められてきた社会的処方の視点を、文化社会政策として再構築しようとしているのが岐阜県可児市だ。同市文化創造センター（愛称・アーラ）では2008年度から、「アールまち元気プロジェクト」という社会包摂型のコミュニティ・プログラムを実施。外国籍市民、障がい者、子ども、高齢者などが直面する課題にアートの側面から斬りこみ、目覚ましい成果を挙げてきた。次に向かうのが、芸術文化の社会包摂機能を全面展開させて地域の教育・福祉・保健医療・多文化共生等の領域とつなげていく、社会的処方箋の実践活動だ。」（キャリアポ特集 カギは“つながり”！「社会的処方」が秘める可能性 取材レポート岐阜県可児市「社会包摂型劇場経営から社会的処方箋の実践拠点へ」より抜粋 p48-50）

### ○第三者機関での実績（Social Return On Investment(SROI) 社会的投資利益率）

可児市が有限責任監査法人トーマツに委託して行った調査で、SROI測定ツールセットを用い、**インプット（講師料や職員人件費や事務経費）**に対して、以下の**アウトカム（参加者の孤立感の減少、自己肯定感の向上、地域活動への参加）**があったと検証された。SROI値が1.0以上で投資効果がコストを上回ると判断される。

- ・平成30年度：ココロとカラダの健康ひろば（高齢者）・・・**3.47**  
親子de仲間づくりワークショップ（乳幼児とその親）・・・**1.46**
- ・令和2年度：ココロとカラダの健康ひろば（高齢者）・・・**0.67**  
新型コロナウイルスの影響による人数制限とオンライン対応による孤立感の減少効果の低減によってアウトカムが減少し、SROI値が1.0倍を切った。前回と3.47から大幅減となったこの結果から、人が集い、対面にて（直接的に向き合って）ワークショップを行うことの必要性・有効性が改めて証明された。
- ・令和3年度：親子de仲間づくりワークショップ（乳幼児とその親）・・・**2.04**  
ミュージカル『君といた夏』代替企画～THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』・・・**1.48**  
就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ（外国籍の幼児）・・・**1.38**

### ○地域社会にもたらした変化（可児市文化創造センターの仲介等によるコレクティブ・インパクト）

- ・**岐阜県教育委員会×文学座** 県立高等学校でのコミュニケーション・ワークショップ
- ・**岐阜医療科学大学×文学座など** 医療系大学におけるコミュニケーション力養成の授業
- ・**可児市×コカ・コーラボトラーズ・ジャパン(株)** 「私のあしながおじさんプロジェクト寄付型自販機」の設置
- ・**ala×可児市教育研究所×市内のさまざま社会機関および市民活動者** 「文化芸術版社会的処方箋活動」に関する話し合いの場「まち元気そうだん室ラウンドテーブル」の設置

## (5) 持続性（平成30年～令和3年度 4か年分）

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 事業運営の観点

当館の事業は、戦略目標に定める「3本の矢」の考え方に沿ってプログラミングされ、芸術愛好者・市民・アークから最も遠いところにいる人々（子ども・高齢者・外国人・障がい者など）それぞれの対象者が事業参加を通じて豊かな「つながり」を獲得できるよう継続的に実施することで、文化芸術がコミュニティの細部まで浸透し、社会を健全化し、その環境（マーケット）変化によって劇場の鑑賞者や支持者の開発につなげることを目指してきた。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響により事業実施が困難になると、社会関係資本である「つながり」の維持も同時に困難となり、分断され、社会生活を営む大人の生活以上に子どもの成長過程に大きな影響を及ぼすことが懸念されている。当館でも、全ての市立小・中学校と不登校教室「スマイリングルーム」の児童・生徒に向けたアウトリーチや演劇等ワークショップが事実上2年間に渡って中止またはオンライン開催を余儀なくされているなどの要因で、地域における不登校児童・生徒数の割合は上昇しており、また、保護者の収入減少による経済的な困窮なども相まって「こどもの社会的孤立」や「つながりの貧困」が深刻度を増している。課題の緩和に向けては市の教育委員会との連携を強化し、不登校問題を軸に芸術文化のスキルを活かす新しい役割を担うことを検討しており、「令和4年度地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業」の委託を受けて、これまで培った文化芸術プログラムと地域の人的リソースを最大限に活かした「文化芸術版社会的処方箋活動（文化芸術のつながり効果を有効活用する新しいネットワーク活動）」の実装を目指していく。

#### 経営（財務）戦略

当館の主たる財源は、可児市からの指定管理料、国等の補助金・助成金収入（本事業、市委託料、一般財団法人地域創造等）、事業収入（入場券販売収入、公演販売収入等）、施設利用料収入などであった。

指定管理料については、令和2年度に指定管理者の再指定（令和3年度～7年度）を受けており、財務規模も引き続き安定している。また、海外との国際共同制作に向けては、万博記念基金等、民間助成金の活用についても検討を始めている。併せて、「文化芸術版社会的処方箋活動」の推進に当たっては、可児市内のさまざまなステークホルダーや地域のキーパーソンとのネットワークを構築し、民間ステークホルダーによる休眠預金事業（休眠預金等活用法に基づく社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度）の受託・活用を検討していく。

事業収入・施設利用料収入については、当初から施設の大規模改修による減収を見込んでいたが、新型コロナウイルスの影響が追い打ちをかけて、当初の見込みより厳しさを増している。今後に向けて、資金調達の多元化を図るため、令和3年1月に文化庁「令和2年度文化芸術収益力強化事業（公募3）」の委託を受け、コミュニティ・プログラム（社会包摂事業）の強化によるパートナーシップ（寄付金収入）の本格導入に向けた検討を進めている。

また、企業とのCSVの試みとして、可児市とコカ・コーラ・ボトラーズ・ジャパン(株)の包括提携を機に、「私のあしながおじさんプロジェクト」の寄付型自販機（2台）を提供いただいております、更なる設置協力を地元企業に向けて働きかけを行っていく。（\*売上の20%を同プロジェクトの原資に充当できるしくみ）

#### 人事戦略

これまで市派遣職員が担ってきた管理職のポジションについては、令和2年度の衛紀生館長兼劇場総監督の退任と令和3年度の笹橋義朗新館長の就任を視野に、文化芸術の専門性（企画プロデュース能力）と持続性の強化を鑑みてプロパー職員の管理職登用（課長級3名）を進めてきた。

また、市派遣職員の引き上げとプロパー職員の退職等に伴い、令和3年度からは20～40歳代のプロパー職員を5名新規に採用。劇場運営経験者3名、NPO運営等経験者、学校教員経験者各1名で、年齢構成や適材適所の経験値など組織活動のバランスを考慮に入れて人選を行った。

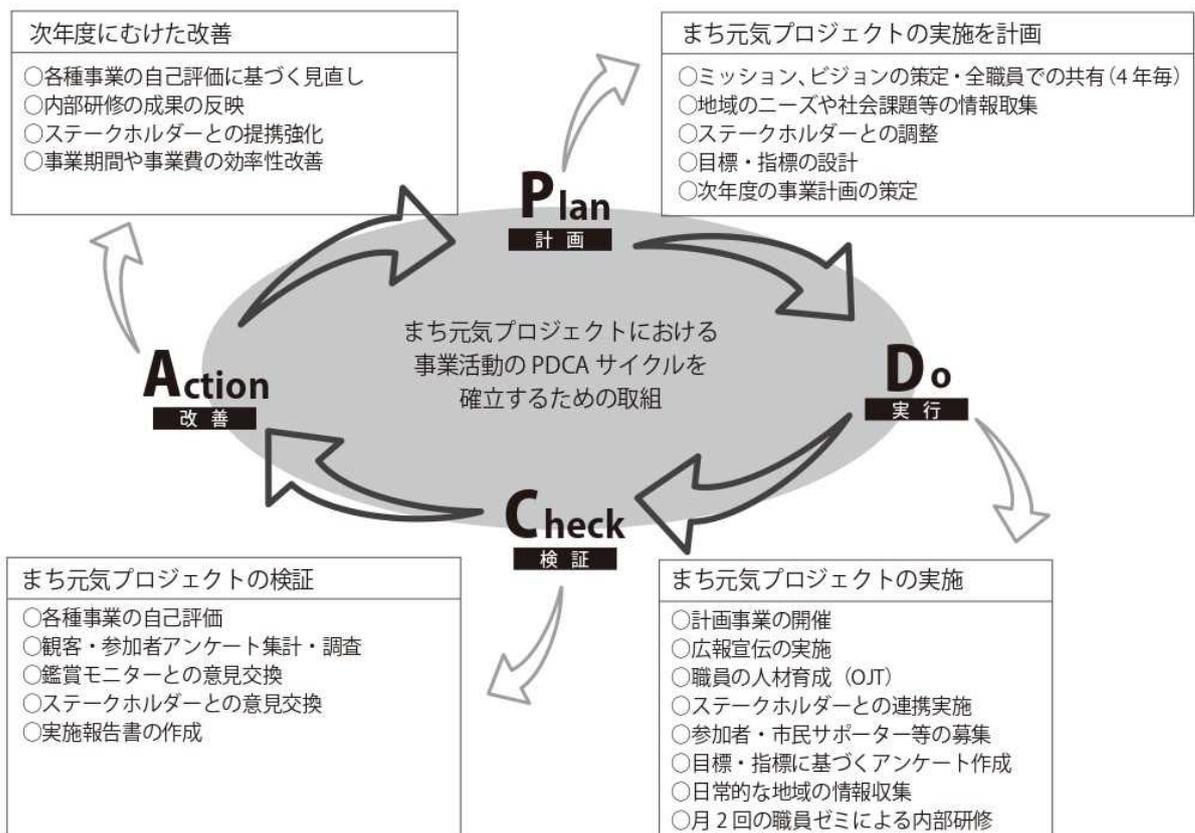
職員の人材養成として、月2回の「館長ゼミ」を設け、全職員での事業ミッションの共有および戦略立案に必要な知見を深めてきたが、令和4年度からは「館長ゼミ」と「職員自主ゼミ」に分割し、全ての職員が理論と実践の課題やギャップを言語化し、それぞれが主体的に所掌業務の検証・改善案を提言できる機会を設けることで、経営感覚と現場理論をバランスよく身につけることを目指して行く。また、中堅職員を独立行政法人日本芸術文化振興会に1名（2年間）派遣し、国内全体を俯瞰できる人材に育て上げることで将来へのキャリアパスを作り上げるしくみを設けている。また、当館と「グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）」を結ぶ英国リーズ・プレイハウスとは、事業実施や文化庁新進芸術家海外研修制度などの活用を通じて継続的に人事交流や情報交換の機会を設けており、当館運営上のロールモデルとして職員のモチベーションを高める重要なファクターとなっている。

### 各方面とのネットワークの構築

前述のコミュニティ・プログラム（社会包摂事業）の強化施策については、令和4年度より可見市における「文化芸術版社会的処方箋活動」の実装を目指しており、当館がこれまで培ってきた可見市内のさまざまなステークホルダーとの協力関係を再構築・強化するため、取り組みに関する意見聴取および話し合いの場として「まち元気そうだん室ラウンドテーブル」を設けてきた。併せて「令和4年度地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業」の委託を受け、市内中高生の文化活動機会の確保と多世代のつながり醸成の両立を目指しているが、これらの役割は財団職員や学校の教職員がこれまでの所掌業務を維持しながら同時に担うことは不可能であり、今後は地域の社会機関・民間ステークホルダー・アーティストとの関係を編み直すことで、その緩和策を地域や市民活動と協働で考えることが必要不可欠な要素となってくる。地域社会全体が、アフターコロナの日常における人々のメンタルヘルス維持とレジリエンス（回復力）獲得を目指して協力して行く上で、**今後、公共劇場がその「プラットフォーム」として機能するための環境整備や財源確保、ネットワーク構築の道筋については日々話し合い、探っているところである。**



### まち元気プロジェクトとしての取組（PDCA）



## 自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

新型コロナウイルス感染症の長期化が地域社会にもたらした影響は、この2年間、当館の「機能強化」に向けた事業の推進およびそのアウトカムの発現にとっても大きな阻害要因となってきた。しかしながら、同時にコロナ禍の経験を通じて、地域社会に存在するこれまで見えにくかったたくさんの「機能不全」がよりはっきりと「見える化」したのではないかと考えている。

その最たるものが地域社会におけるさまざまな社会関係資本である「**つながり**」の**機能不全**であり、地域経済や国民生活を循環させるマーケティングにおいてもかけがえのないこの資源の回復は、我々公共劇場に関わるものにとっても喫緊の課題であると捉えている。

可児市文化創造センター・アラーでは、これまで培ってきた「鑑賞者開発」「市民の主体的参加」「社会包摂機能」のノウハウを最大限に活かしながら、ロジックモデルに掲げる初期・中間・最終アウトカムの実現・定着に向けてあらゆる層の市民と「鑑賞（消費）行動」を前提とした関係だけではなく、豊かな地域生活を育むための「価値共創」を目指した協力関係を結ぶことを目指してきた。しかしながら、**コロナ禍を経たこれからの地域社会において社会関係資本（つながり資源）を回復することは、従来よりも多くのハードルを越えなければならなくなったことは言うまでもない。**

「鑑賞（消費）行動」と「価値共創」を両立させながら、持続的なアウトカムの発現・定着を実現するということは、「現状を維持していく」ということと同義ではない。「(2) 有効性」の冒頭でも述べた通り、今回の自己点検報告書の分析結果や現在の社会状況は、「従来のロジックモデルにアフターコロナにおけるさまざまな社会変容を加味した上で、アウトカム発現の可能性を高めるための更なる手立てを講じることが必要となってきている」ことを指し示しているだろう。

すなわち、持続的なアウトカムの発現・定着を実現していくために、当館がミッション、ビジョンに掲げる「新しい価値による行動の『変化』とその『生き方』を提供する社会機関としての役割を果たすこと」こそが、今、地域社会から強く求められているのだということが、当館としての基本認識であり、そのために必要な**事業収益の増加、資金調達環境の向上、社会的コスト・受益者負担の軽減を実現する「社会包摂型劇場経営」の体系化と「文化芸術版社会的処方箋活動」の実践拠点としての役割**を、当館が単独で目指すのではなく、行政、学校、地域の社会機関、市民活動、民間企業、理念を同じくする全国の劇場・音楽堂など、さまざまな立場のステークホルダーとの理念共有と価値共創（Co-creation）によって発展・実現を目指すことで、次なる5年間における持続的なアウトカムの発現・定着を期待することができると考えている。